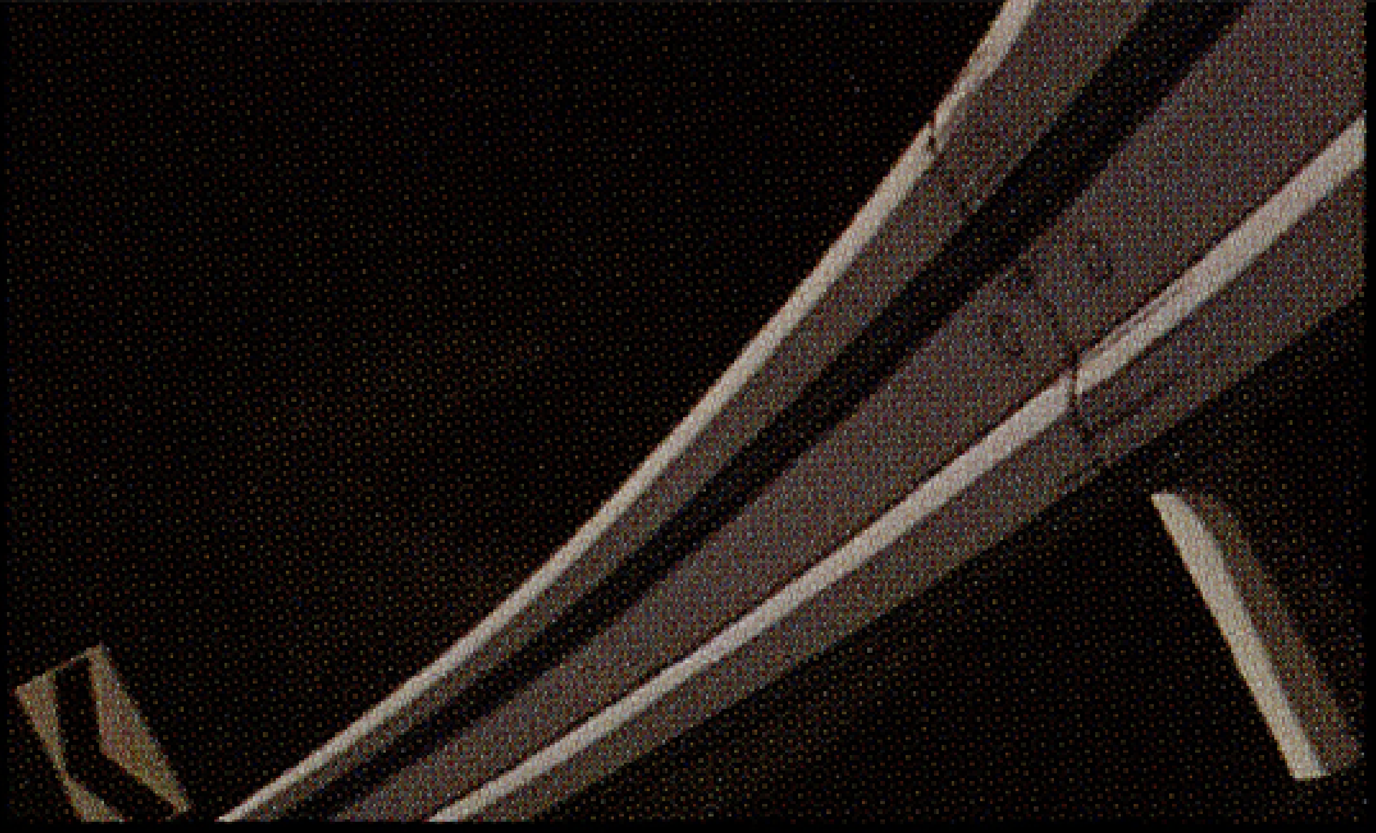


[イニシャル]
頭文字D
First Stage
メモリアルマガジン
Dash編
VOL.4
講談社











CONTENTS


頭文字D　メモリアルマガジン Vol.4　講談社













本誌＆DVDで贈る

超スペシャルインタビュー!! 後編

しげの秀一 最終話の構想を語る!!

『頭文字D』の原作者自らが語る創作の秘密。前回に引き続いて今回もお贈りいたします！本誌とDVDを見逃すな！

なつきは、なんでああいうヒロインになったのかな……。当時、自分でも不思議でした。

しげの秀一

『頭文字D』原作者。1985年、『バリバリ伝説』（全38巻／1983年〜1991年、週刊少年マガジンにて連載）にて講談社漫画賞少年部門を受賞。1995年、『頭文字D』をヤングマガジンにて連載開始。



『頭文字D』の恋愛はハッピーにならないんです。

CGでクルマをやってくれなかったら、走行シーン、バトルシーンはあんなに魅力的にならなかった。正確なクルマが、路面を滑って走る。CGの走行シーンは大好きなんですよ。

ユーロビートを聞いた瞬間に、イヤでも血が騒ぎます(笑)。

ナビゲーター
三木眞一郎

『頭文字D』藤原拓海役。声優として、多くの作品に参加。アニメ界を代表する声優のひとりである。一方、バイク・カーマニアとしても知られ、拓海が乗るハチロクと同型のスプリンタートレノを所有する。

Magazine Stage

DVDと本誌のダブルで贈る

インタビュー

ナビゲーター　三木眞一郎

シルエイティは僕の好きなところを取り込んだクルマです

三木眞一郎　真子と沙雪のクルマをシルエイティに選んだのが面白いと思います。なぜ選ばれたんですか？

しげの秀一　シルエイティは当時、話題になっていたんですよ。兄弟車の180SXとシルビアはちょっと違うだけで同じエンジンで同じボディでした。レビンと86もそうですよね。僕はシルビアのフロントは好きだったんですけど、リア……トランクの形が好きではありませんでした。当時はハッチバックが好きだったんです。180SXのハッチバックのリアは大好きでして、今度はフロントがカッコ良くない。だから、ダメなところとダメなところを切って、良い所だけを足したら絶対カッコイイと思っていた（笑）。シルエイティというニコイチがあるのを聞いた時に、これはもう『頭文字D』に出してやろうと思ってね。180SXもシルビアも、ひとつずつ形が嫌いなところがあった。それを良い所取りしたクルマがあるなら最高じゃないかと思っていましたね。ただ、当時は資料がなくて、けっこう描くのに苦労しました。

ふたりで話しながら夜中に走るのは楽しそうだな、って

三木　女子同士のペアはどういうところから生まれたんですか？

しげの　まず、僕のなかでは、女の子は友達同士でいっしょにいるのが好きなんじゃないか、と思っているんです。もちろん、男でも、ないとはいいませんけどね。クルマのなかでも、ふたり1セットというのが、そこに女の子らしさを出せるんじゃないかな、と思いました。また、ラリーはドライバーがいて、コ・ドライバーがいる。片方は運転をせずに指示を出して、片方はメカの知識はなくて運転だけをする。ふたりあわせて1個というのが面白くてキャラが立つな、と。それに、女の子はひとりでストイックに走っているのではなくて、隣にもうひとりいる。ふたりでなんだかんだ話しながら、夜中に走ったりするのが、僕の中ではすんなりイメージとして浮かんだんですよ。そのほうが楽しそうだな、って。

喜んじゃう拓海!?

三木　僕自身、クルマが大好きです。拓海がやっていることをできたら嬉しいのにな、と思っても、拓海はそういう表現をしません。最初の1話、2話あたりは出ちゃうんですよ。三間音響監督に「そこ、喜んではダメ。三木さんは嬉しいかもしれないけど、拓海は喜ばないから」って言われました。

しげの　へえ！　そんな演技指導があったんですね。

三木　最初の頃はありました。とくに第1話の頃は喜んじゃって「すみません、俺が出ていました」と言ってい

後編

しげの秀一

Special Interview

ましたね（笑）。
しげの　喜んじゃう拓海って聞いてみたいな（笑）。
三木　あははは。そういった自分をスライドさせて拓海を置くことで、拓海になっていきました。彼の成長を、僕が追いかけていくのが嬉しいんです。
しげの　初期の拓海と今の拓海は違っています。今は、もっと感情を出してもいいし、前よりは出している。……三木さんのなかではそこが試行錯誤だったとは（笑）。
三木　最初はそうでしたねぇ。

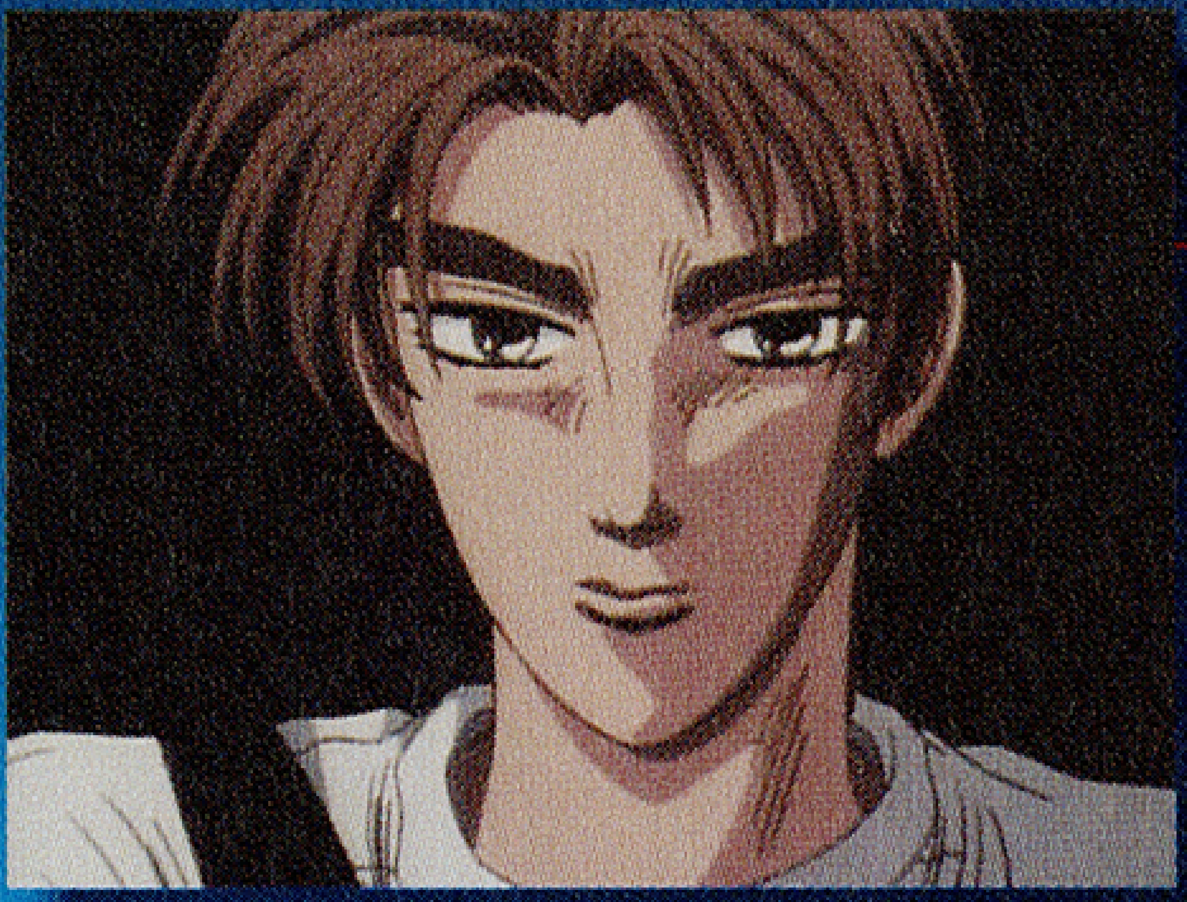
First Stageの中間くらいのCG

三木　印象に残っている走行シーンはありますか？
しげの　どんどん進化していますからね。
三木　そうなんですよね。
しげの　その都度その都度、感心しています。ただ、最新作はちょっとすごすぎるかな。もうちょっと、一歩手前くらいのところで止まってくれると……。
三木　ははは。
しげの　CGの技術は今後も上がっていくと思います。だけど、ちょっとこうFirst Stageの中間くらい……が『頭文字D』の世界観とは合っているかな。最近はスムーズですよね。実車が走っている感じになっている。原作の荒唐無稽さが出るには、リアリティと非現実的なところが残っているくらいの……乱暴なくらいがいいよね。
三木　あえてリアルには行かずに？
しげの　そうですね。手前で止めてくれればね。
三木　フィクションな動きがあっても？
しげの　そうです。拓海や啓介が走るときは「わ、普通じゃねぇッ！」と思わせるくらいがいい。
三木　劇場版（『頭文字D Third Stage』）の時はクルマが飛んでいますよね（笑）。
しげの　飛んでますね。劇場版のCGはすごくいいです。
三木　あれはリアルとしげの先生の原作の間をちょうどいいくらいに行ってますよね。
しげの　見事でした。
三木　実写ではあり得ないですよね。
しげの　マンガでその話を描いている僕でさえも、実際に重そうなクルマがジャンプをするのを見たときに、すっごいドキッとしました。「うわ、おそろしい！」と、さすがにアニメだと思いました。ああいうところはマンガを超えていますよね。
三木　しかも、CGでクルマの下まわりですよ。
しげの　ねえ（笑）。誰も作ったことないでしょ？　絵を描くだけでも下まわりの資料がなくて困っているんです。プラモを見ながら描いていますからね。それくらい、クルマの下まわりの写真などの資料はない。
三木　ないですよね。あれは度肝を抜かれました。

DVDでも Don't miss it!!

TVアニメ『頭文字D』15周年！ 超豪華声優陣からメッセージ!!

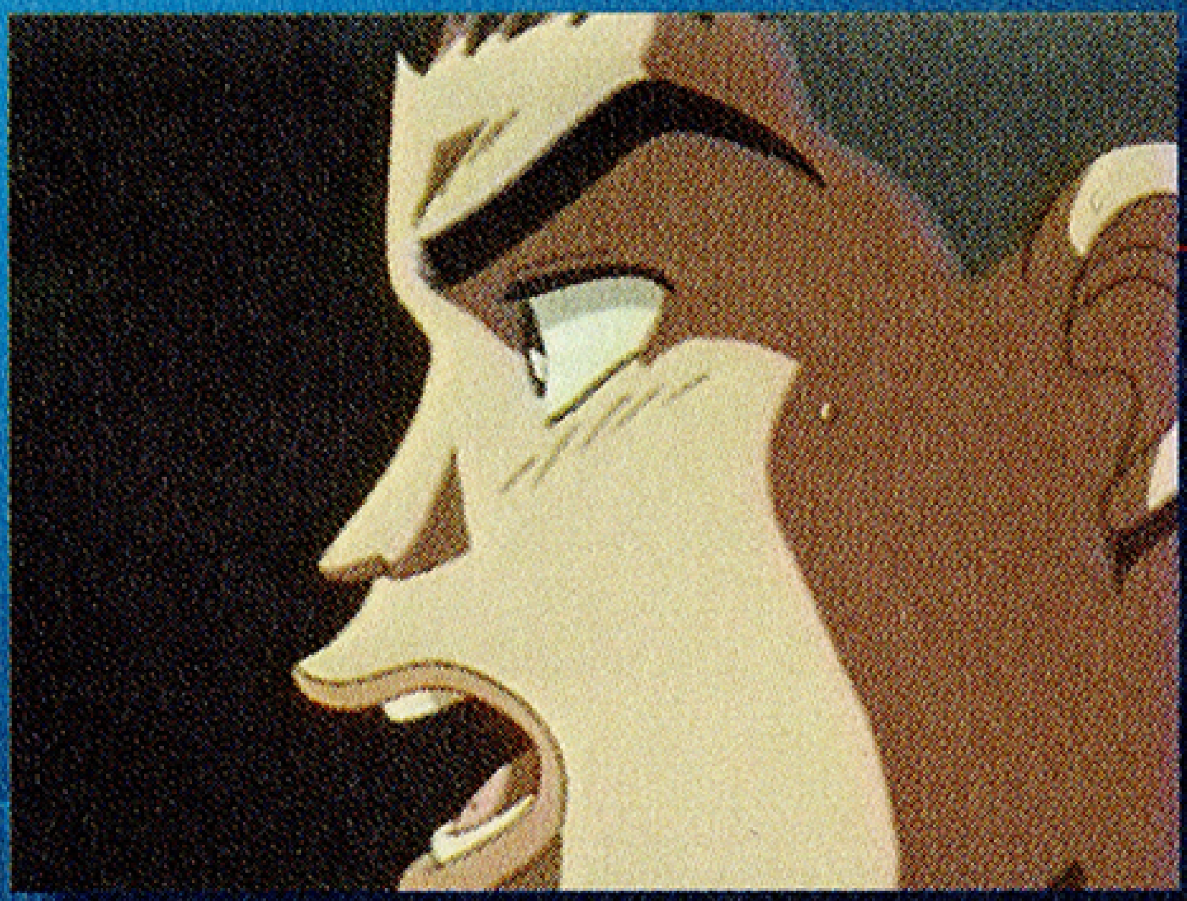
アニメ『頭文字D』は15周年を迎えて、ますます盛り上がる！ 15年を積み重ねてきた声優陣が、今までを振り返り、そして未来への気持ちを語る!!



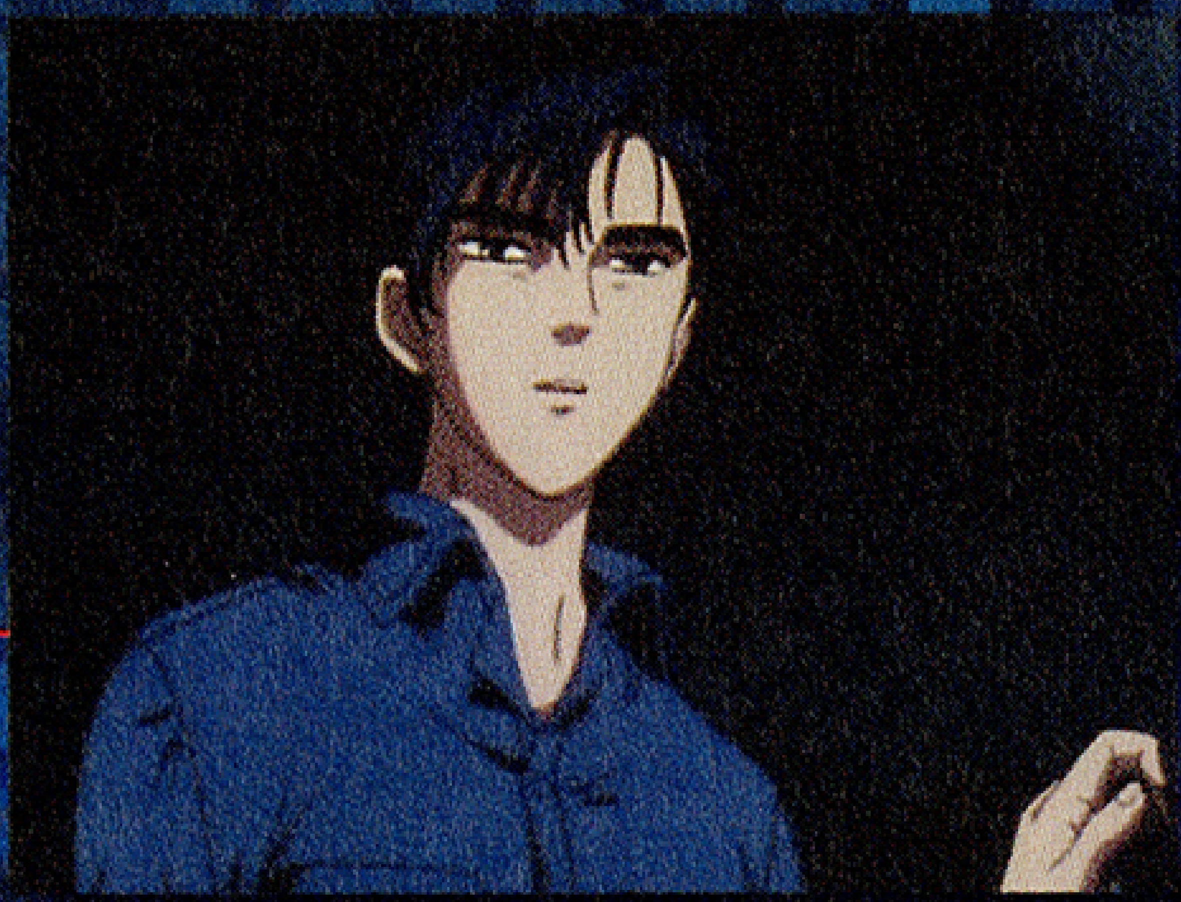
三木眞一郎
藤原拓海 役



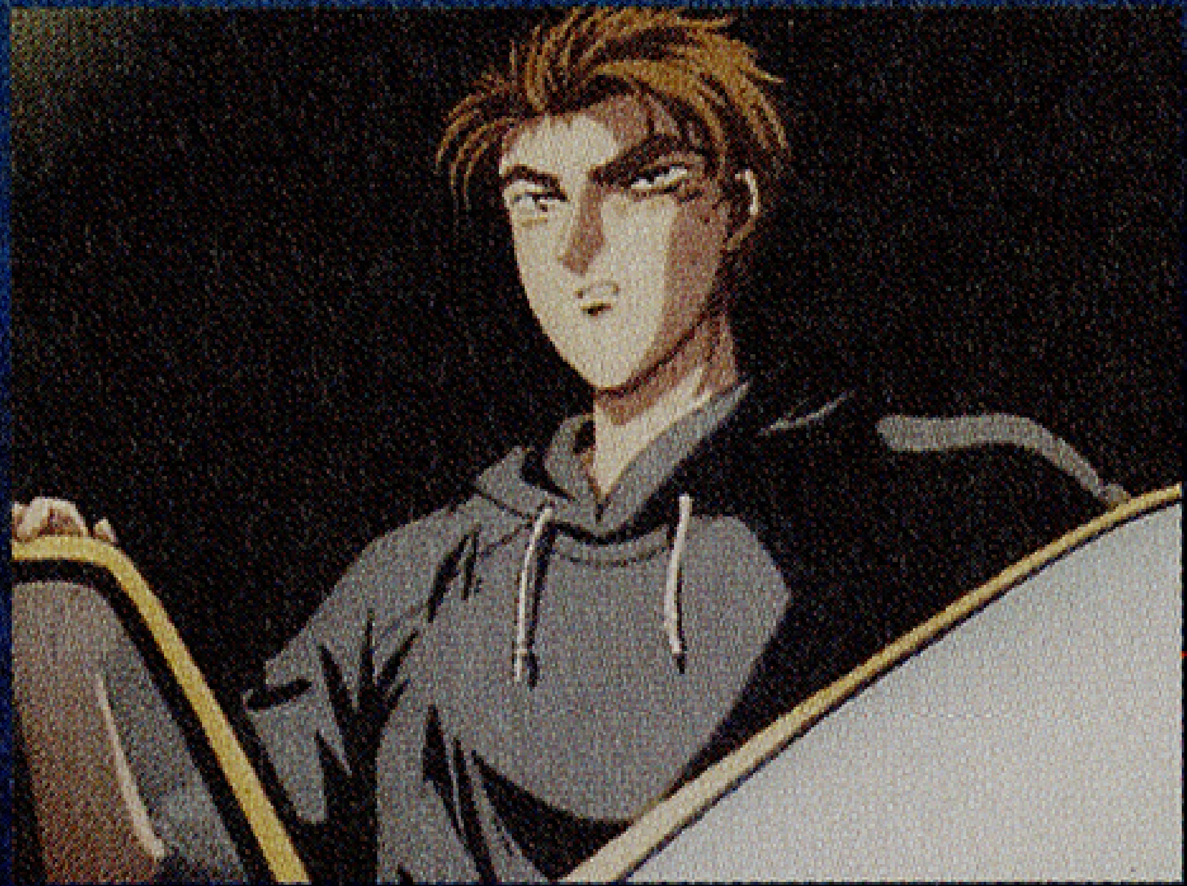
石塚運昇
藤原文太 役



岩田光央
イツキ 役



子安武人
高橋涼介 役



関 智一
高橋啓介 役



三木眞一郎

藤原拓海 役

『ポケットモンスター』(コジロウ役)、『マギ』(マルッキオ役、家庭教師役、銀行屋役)、『ROBOTICS;NOTES』(澤田敏行役)、『八犬伝—東方八犬異聞—』(犬山道節役)など出演作品多数。

Q1 クルマへの想いを教えて下さい。

とても素敵な存在。
様々なコトを教えてくれます。

Q2 『頭文字D First Stage』で印象に残っているシーンを教えて下さい。

「ガソリン満タン〜」というところ。
なんかリアルで……。

Q3 1998年に『頭文字D First Stage』がはじまりました。当時の自分に声をかけるとしたら、どんな言葉をかけますか？

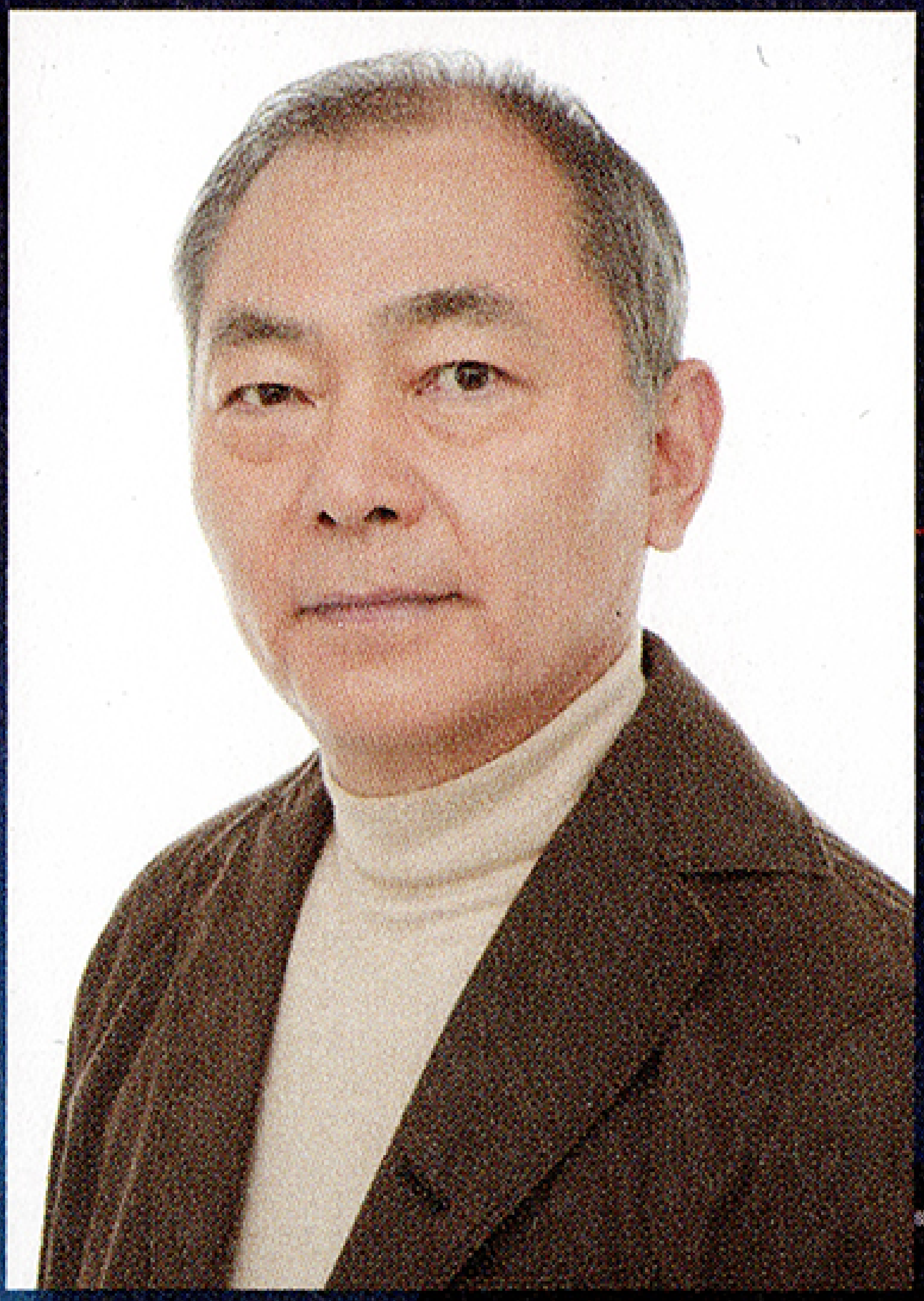
仕事をしていく上で、自分に振られたフラッグは見落とすな!!

Q4 『頭文字D』で描かれる父と子の関係について、どのようにお考えでしょうか。

気付きと成長。

Q5 アニメ『頭文字D』15周年に向けたメッセージをお願いいたします！

原作のパワーと、アニメーションを支持して下さっている皆様のおかげで15周年を迎えるコトが出来ました。本当に有り難うございます。その皆様のご期待を裏切らないように作品に向き合ってまいります!!



石塚運昇

藤原文太 役

『カウボーイビバップ』(ジェット・ブラック役)、『ポケットモンスター』(オーキド博士役)、『鋼の錬金術師 FULLMETAL ALCHEMIST』(ヴァン・ホーエンハイム)など、出演作品多数。

Q1 クルマへの想いを教えて下さい。

かつてはドライブも大好きでしたが、今は移動手段です。でもクルマは好きですヨ。

Q2 『頭文字D First Stage』で印象に残っているシーンを教えて下さい。

息子の拓海の車を回収しに行った場面です。

Q3 1998年に『頭文字D First Stage』がはじまりました。当時の自分に声をかけるとしたら、どんな言葉をかけますか？

「よくやってるよ」と言ってやりたい。

Q4 『頭文字D』で描かれる父と子の関係について、どのようにお考えでしょうか。

突き放した愛情が文太には感じられます。

Q5 アニメ『頭文字D』15周年に向けたメッセージをお願いいたします！

もう一度『頭文字D』を見つめ直して、そのカッコよさを伝えたいと思います。



岩田光央

イツキ 役

『AKIRA』（金田正太郎役）、『灼眼のシャナ』（マルコシアス役）、『よんでますよ、アザゼルさん。』（セーヤ役）など、出演作品多数。

Q1 クルマへの想いを教えて下さい。

クルマは、部屋であり、移動する手段であり、家族でもあります。

Q2 『頭文字D First Stage』で印象に残っているシーンを教えて下さい。

数々ありますが、R32とのバトルシーンが印象に残ってます。

Q3 1998年に『頭文字D First Stage』がはじまりました。当時の自分に声をかけるとしたら、どんな言葉をかけますか？

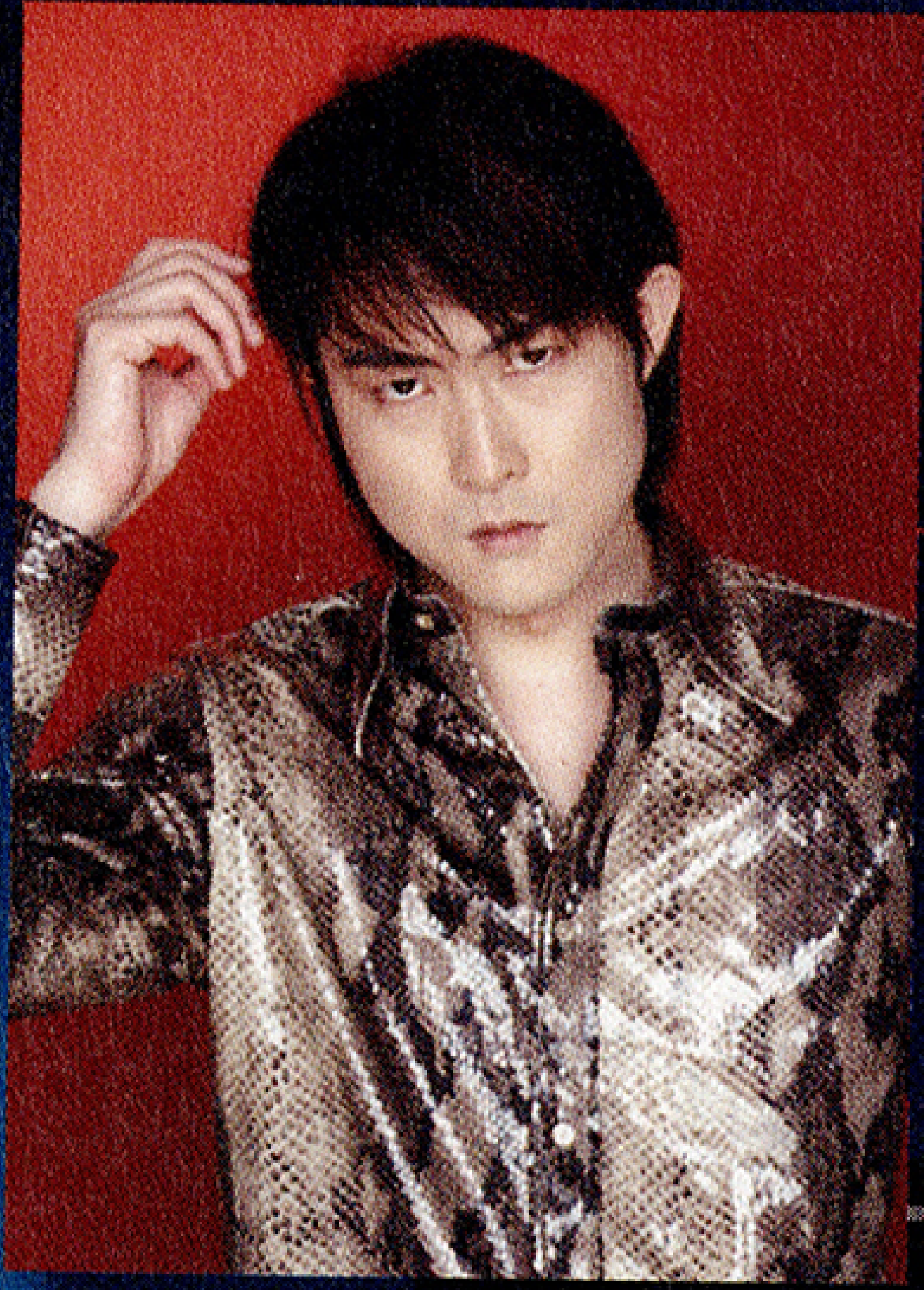
おーい、まだ現役で若者役を頑張ってるぞ～、ですかね（笑）。

Q4 『頭文字D』で描かれる友人関係について、どのようにお考えでしょうか。

イツキの拓海に対する友情は、本当に純粋ですね。実生活でたった一人でも、このような親友がいてくれると心強いですね。

Q5 アニメ『頭文字D』15周年に向けたメッセージをお願いいたします！

さて、『頭文字D』も、いよいよFifth Stageです。15年間大切に、一緒に歩んできた作品ですので、心残りの無い様に命を吹き込んでゆきます。



子安武人

高橋涼介 役

『天空戦記シュラト』(夜叉王ガイ役)、『楽しいムーミン一家』(スナフキン役)、『新機動戦記ガンダムW』(ゼクス・マーキス役)、『少女革命ウテナ』(桐生冬芽役)など、出演作品多数。

Q1 クルマへの想いを教えて下さい。

スーパーカーブームを経験しているので、格好良く速いイメージです。大人になったら絶対乗ってやると思っていました。

Q2 『頭文字D First Stage』で印象に残っているシーンを教えて下さい。

それぞれがバトルするシーンです。とても迫力があって興奮しました。

Q3 1998年に『頭文字D First Stage』がはじまりました。当時の自分に声をかけるとしたら、どんな言葉をかけますか？

今はそれで良い。
経験すれば見えてくるものもあるよ。

Q4 『頭文字D』で描かれる兄弟やライバル関係について、どのようにお考えでしょうか。

成長するには人との関わりを抜きには語ることは出来ません。良い出会いをしたいものです。

Q5 アニメ『頭文字D』15周年に向けたメッセージをお願いいたします！

今まさに高橋涼介との絆が最高潮になっています。記念すべき15周年に素敵な涼介を届けられるよう精一杯努力していきますので、引き続きの応援よろしくお願い致します。



関 智一

高橋啓介 役

『機動武闘伝Gガンダム』(ドモン・カッシュ役)、『新世紀エヴァンゲリオン』(鈴原トウジ役)、『カードキャプターさくら』(木之本桃矢役)、『はじめの一歩』(宮田一郎役)など、出演作品多数。

Q1 クルマへの想いを教えて下さい。

いまや無くてはならない便利な道具という感じです。いつも僕を色んな所へ連れて行ってくれるという感じなので、ペンやハサミのように身近なものとして愛用してます。

Q2 『頭文字D First Stage』で印象に残っているシーンを教えて下さい。

やっぱり、藤原拓海と初めてバトルをしたときですね。知らない言葉がいっぱい出てきて、当時、僕はまだ免許を持ってなかったので、教えてもらいながら演じてました。

Q3 1998年に『頭文字D First Stage』がはじまりました。当時の自分に声をかけるとしたら、どんな言葉をかけますか？

『もうすぐ、免許取るよ！』

Q4 『頭文字D』で描かれる兄弟やライバル関係について、どのようにお考えでしょうか。

仲の良い兄弟もいますし、チームの絆や信頼関係もありますよね。あとは、藤原拓海とのお互いを高めあう良いライバル関係ですかね。非常に恵まれた環境でのびのびとやっているので羨ましいですね。

Q5 アニメ『頭文字D』15周年に向けたメッセージをお願いいたします！

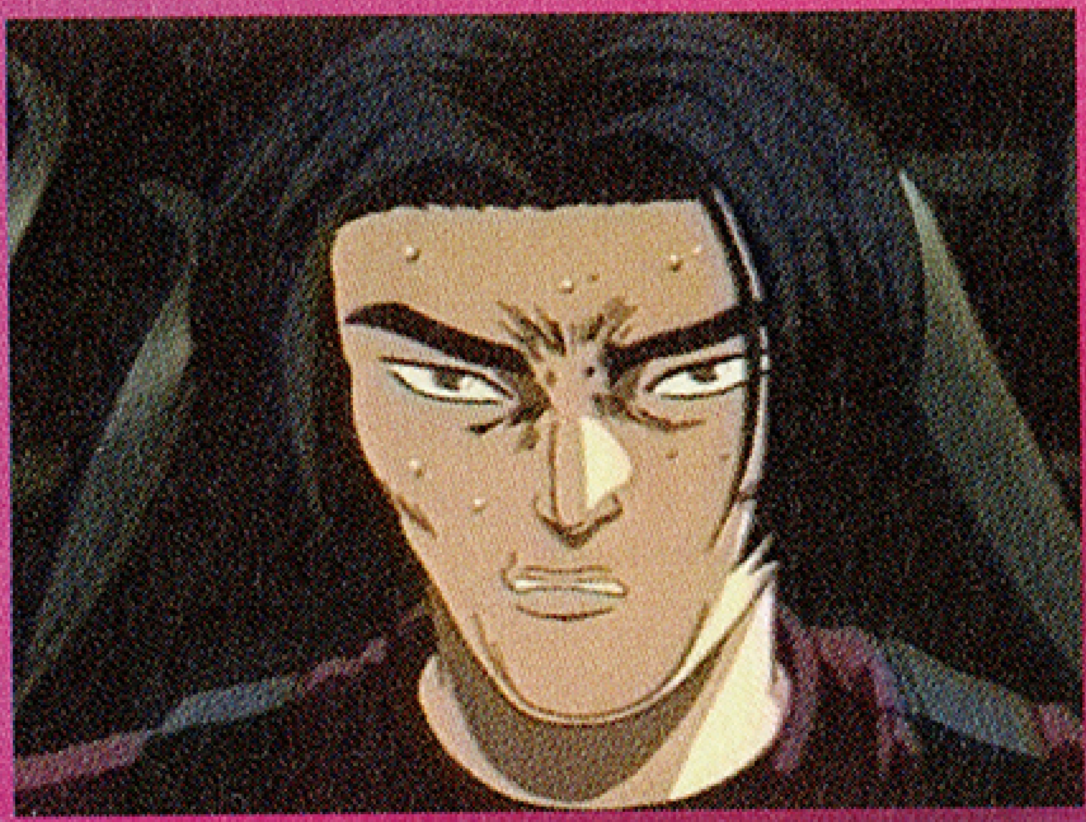
15周年おめでとうございます!!
長いお付き合いとなり『頭文字D』のおかげで、車の免許も取りました。僕はスポーツタイプの車には乗っていないんですけど（笑）。『頭文字D』は、自分の中で、とっても大きな印象と意味を持つ作品なので、今回Fifth Stageまで長く演じられて、本当に嬉しいです。原作で描かれている部分を全部演じられるというのは、なかなか無いことなので、ファンの皆さんの応援のおかげだと思っています。
これからも、末永く『頭文字D』を応援してください！

CIVIC E-EG6 SiR-II



シビックは1972年から2010年まで生産・販売されていた小型乗用車。その中でも1991年から1995年に開発された5代目スポーツシビックのEG型は名車と呼ばれる。総排気量1.6LのDOHC VTEC（B16A）エンジンを搭載し、3ドアのものがEG6（SiR）型。前輪駆動型でパワーのあるエンジンと安定性の高いコーナリング性能に定評がある。なお、インテリアや内装仕様の違いでSiR、SiR-II、SiR-Sなどがあった。

妙義ナイトキッズの庄司慎吾はミラノレッドのボディカラーのEG6 SiR-IIに乗って登場。右足でアクセルを踏みっぱなしにしたまま、左足のブレーキを踏み、VTECエンジンの高回転域を活かしつつ荷重コントロールするテクニックを披露する。





エンジン：1.6L DOHC VTEC（B16A）
排 気 量：NA1600cc
チューニング：圧縮比アップ
ピストンコンロッドバランス取り
フライホイール軽量化
スポーツコンピューター
EX マニホールド
スポーツマフラー 70φ
MAX出力 185ps



1998年生まれた7月

鈴木あみが『love the island』でデビュー！ドラマ『GTO』放送開始！

1日
鈴木あみ（現・鈴木亜美）がシングル『love the island』でデビュー
SPEEDがシングル『ALIVE』を発売
トヨタ「ビスタ（5代目）」「ビスタアルデオ」発売

2日
'81年ロス銃撃事件の三浦和義被告に逆転無罪判決

3日
ドラマ『青の時代』放送開始

7日
ドラマ『GTO』放送開始
ドラマ『神様、もう少しだけ』放送開始

8日
ドラマ『ハッピーマニア』放送開始
B'zがシングル『HOME』を発売
L'Arc～en～Cielがシングル『HONEY』『花葬』『浸食～lose control～』を同時発売

10日
寝台電車「583系」以来、30年ぶりに寝台電車「285系」が登場

GTO
『週刊少年マガジン』に連載された、藤沢とおるの学園マンガ。元暴走族の教師が巻き起こす型破りな学園生活を描く。同誌の看板作品として人気を博し、1998年7月からは反町隆史主演で実写ドラマ化される。平均視聴率（関東地区）は28．5％を記録し、大ブレイクを果たした。ヒロインを松嶋菜々子が演じ、後に反町と結婚したことでも話題に。1999年からはテレビアニメ化され、2012年にはEXILEのAKIRA主演で再度実写ドラマ化されている。

アニメ［イニシャル］頭文字Dが First Stage

7月 July

11日 映画『GODZILLA』（監督：ローランド・エメリッヒ）公開

12日 第18回参議院議員選挙が実施される

12日 FIFAワールドカップ決勝戦にて、フランスがブラジルに勝利し初優勝

17日 aikoがシングル『あした』でデビュー

18日 映画『劇場版ポケットモンスター ミュウツーの逆襲』公開

18日 とんねるずの石橋貴明が元モデルの夫人と離婚

22日 ポケットビスケッツがシングル『POWER』を発売

22日 サッカー選手の中田英寿がイタリア・セリエAのACペルージャへの移籍を発表

24日 ゲームソフト『モンスターファーム』発売

25日 和歌山で毒物カレー事件が発生

25日 マイクロソフトの新OS「Microsoft Windows 98」日本語版発売

29日 KinKi Kidsのシングル『全部だきしめて』発売

30日 小渕恵三が内閣総理大臣になる

1998年生まれた

8月

サザンオールスターズ20周年記念コンサート開催！

アップル「iMac」日本発売！

1日
ゲームソフト『ポケモンスタジアム』発売
映画『オースティン・パワーズ』（監督：ジェイ・ローチ）公開

2日
マンガ家のさくらももこが編集者の夫と離婚

3日
トヨタ「ナディア」を発売

8日
映画『機動戦艦ナデシコ －The prince of darkness－』（監督：佐藤竜雄）公開
サザンオールスターズが20周年記念コンサートを開催。2日間で約10万人の来場者を記録

10日
新潟市でポットにアジ化ナトリウムが混入される事件が発生

iMac

1998年5月にアメリカで発表され、日本では8月29日に発売されたアップル（当時はアップル・コンピュータ－）のモニター一体型デスクトップパソコン。初代の定価は17万8000円。低価格と接続のシンプルさが売りだが、最大の特徴は半透明で丸みのあるカラフルなボディ。そのインパクトはパソコンのイメージを一変させ、当時低迷していたアップル復活の象徴となった。

2013年現在も見た目やスペックこそ大幅に変化したものの、iMacシリーズはアップルの主要モデルとして販売が続けられている。

アニメ［イニシャル］頭文字Dが First Stage

8月 august

15日 映画『TAXi』（監督：ジェラール・ピレス）公開

17日 アメリカのクリントン大統領（当時）がモニカ・ルインスキーとの「不適切な関係」を認める

18日 トヨタ販売店「トヨタオート」が「ネッツトヨタ」に社名を変更

20日 アメリカがアフガニスタンとスーダンのテロ関連施設をミサイル攻撃

21日 任天堂が万歩計タイプのゲーム機「ポケットハローキティ」を発売

22日 夏の甲子園決勝戦にて、横浜高校の松坂大輔がノーヒットノーランを達成

24日 日産「アベニール（2代目）」発売

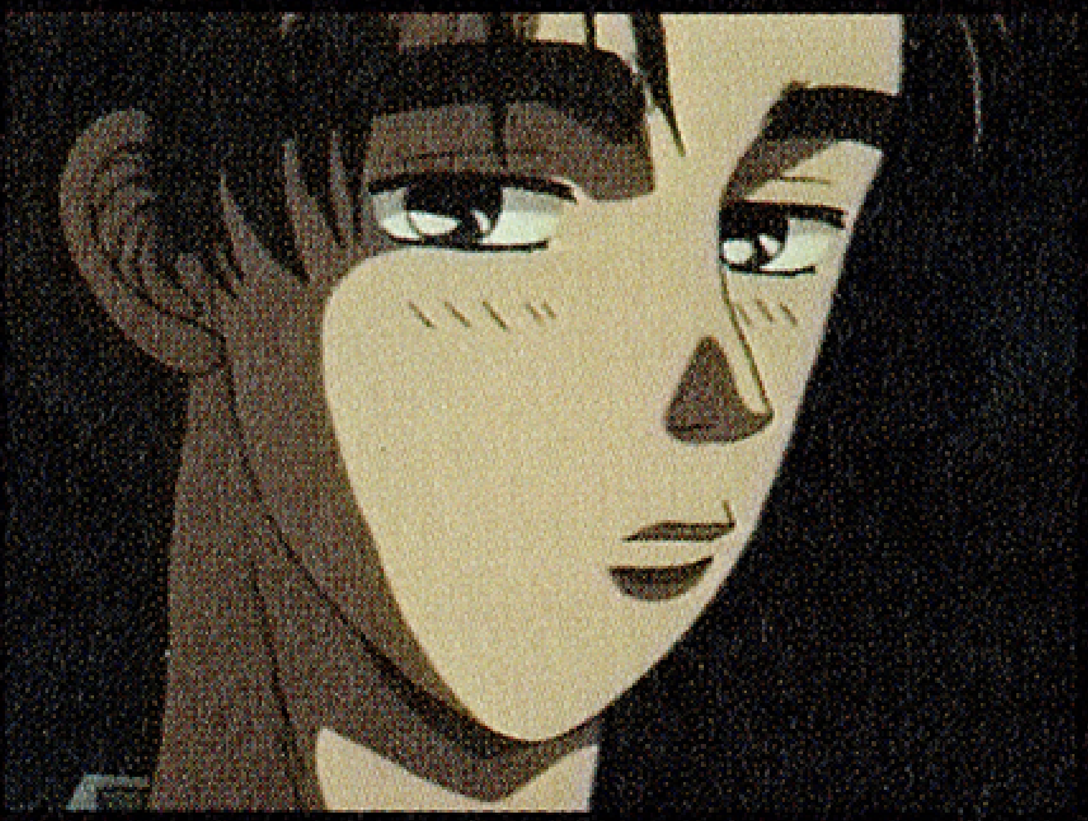
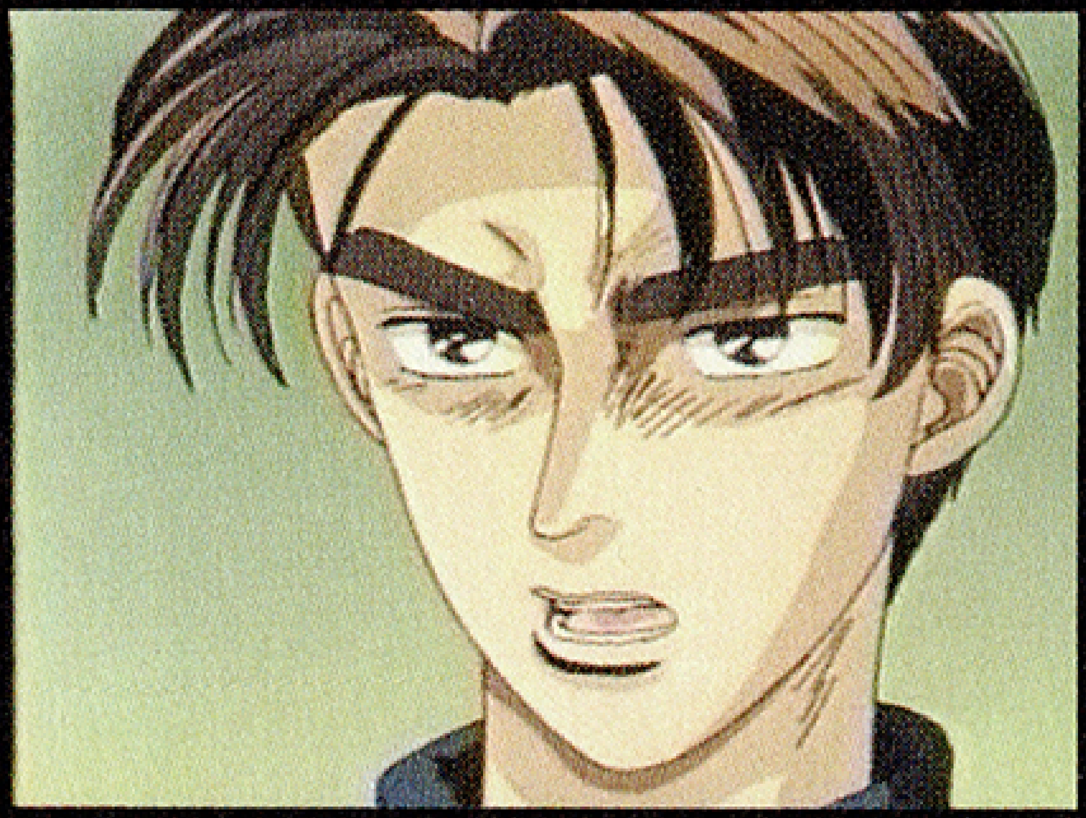
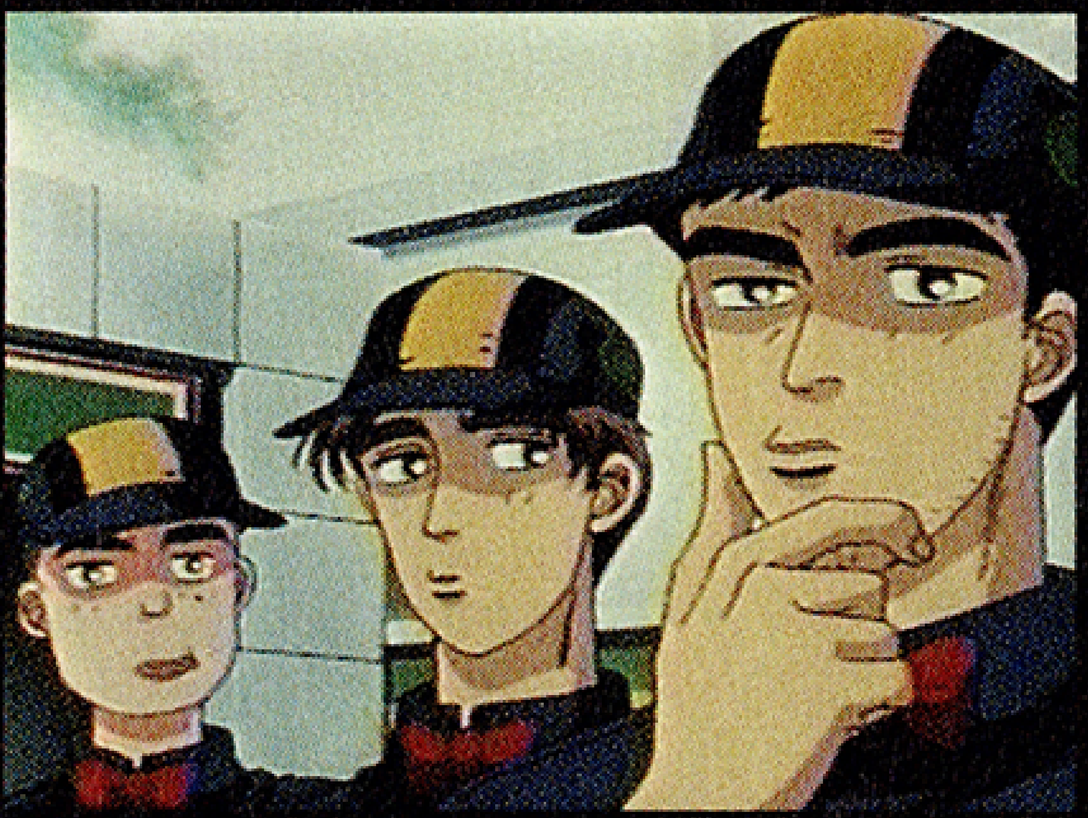
28日 トヨタがダイハツを完全子会社化

29日 アップルが「iMac」を日本でも販売開始

31日 北朝鮮が弾道ミサイル「テポドン」を日本海に向けて発射

頭文字［イニシャル］D ストーリー解説







MAIN STAFF

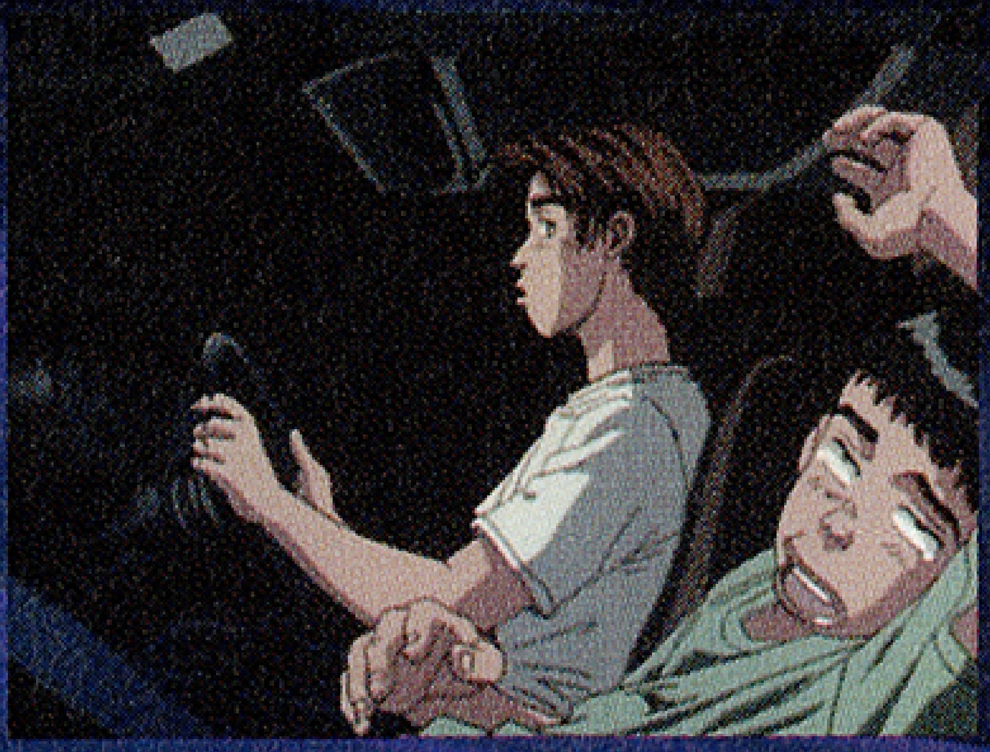
原　　作　しげの秀一（講談社　ヤングマガジン連載）
企　　画　庄司隆三（プライム・ディレクション）
エグゼクティブプロデューサー　宇佐美　廉（オービー企画）
プロデューサー　福田佳与（パステル）
　　　　　　　　茂垣弘道（スタジオコメット）
アシスタント・プロデューサー　菊地禎仁（スタジオコメット）
　　　　　　　　　　　　　　　杉村重郎（スタジオぎゃろっぷ）
　　　　　　　　　　　　　　　市川邦泰（プライム・ディレクション）
キャラクターデザイン・総作画監督　古瀬　登
CG監督　長尾聡浩（ネスト）
美術監督　高橋和博
音　　楽　勝又隆一
音響監督　三間雅文
制　　作　パステル
監　　修　土屋圭市　ホットバージョン編集部
主 題 歌　「around the world」m.o.v.e (avex tune)
オープニング　小深田真次
編　　成　金田耕司（フジテレビ）
監　　督　三沢　伸
製　　作　プライム・ディレクション／オービー企画

TITLE

ACT.11 デンジャラス慎吾登場!

Cast 拓海 三木眞一郎／イツキ 岩田光央／なつき 川澄綾子／祐一 西村知道／池谷 矢尾一樹／健二 高木渉
慎吾 藤原啓治／啓介 関智一／弘道 安井邦彦／正一 陶山章央／章夫 鈴木淳／細井治／田中伸幸

Staff 脚本 戸田博史／絵コンテ 池上和誉／演出 西本由紀夫／音響制作 テクノサウンド／作画監督 一川孝久、山崎猛
レイアウト監修 林千博／色彩設計・色指定 安斎直美／撮影監督 森下成一／編集 岡安プロモーション
エンディングテーマ「Rage your dream」m.o.v.e(avex tune)








STORY

ハチゴーの助手席で藤原拓海のドライビングテクニックを見ていたイツキは、クルマの速さは性能ではなく、ドライバーの腕であることを痛感する。一方、池谷は修理したばかりのS13でドリフトの練習に励んでいた。そのとき、突然背後から一台のクルマが現れる。妙義ナイトキッズの庄司慎吾だ。慎吾は池谷のS13に近づき……。

CHECK POINT

妙義ナイトキッズの慎吾が登場。リーダーの中里毅とメンバーの慎吾は派閥争いをしている最中。拓海に中里が敗れたことを知り、慎吾は秋名へ進出する。その最初の獲物が池谷のS13。勝利のためならば手段を選ばない慎吾が、秋名スピードスターズに襲い掛かる。S13をスピンさせて笑い声をあげる慎吾は……完全に悪者!?

PUNCH LINE

名シーンピックアップ

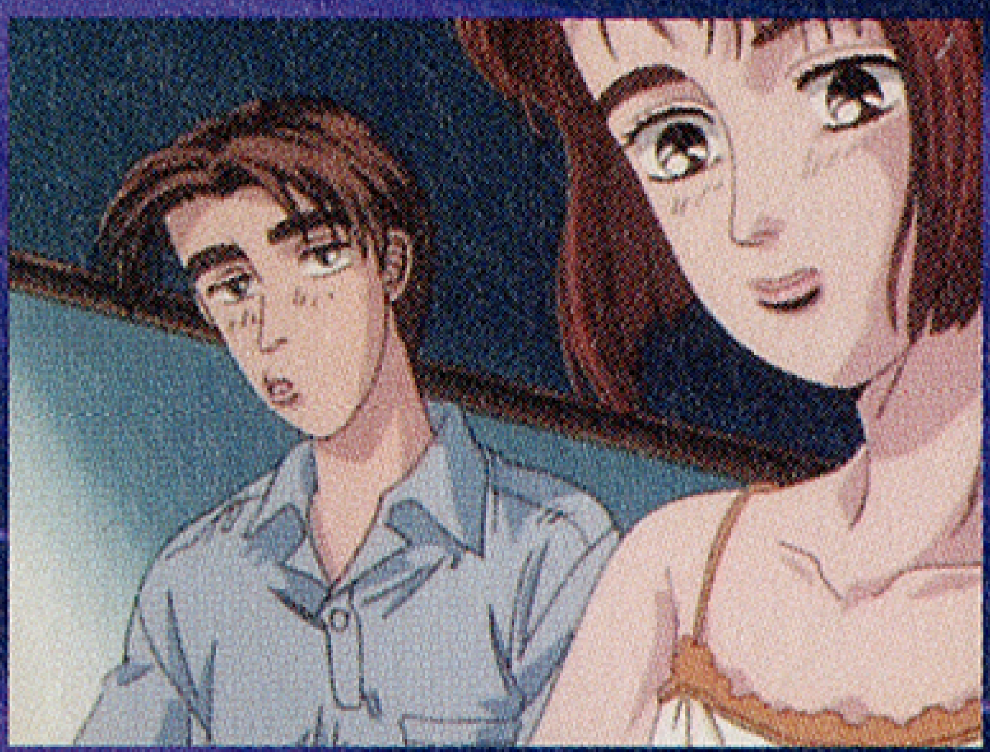


土屋圭市さんが出演している「ホットバージョン」のDVDを参考に、ドリフトの練習をする池谷たち。池谷曰く「サイド(ブレーキ)をステア(リング)とタイミングをあわせて引き、ドリフトのきっかけをつくる」ことがコツだとか。
拓海の腕前に追いつくにはまだ長い道のりがありそうだ。

WORDS

「俺うれしくってうれしくってしょうがないんだからさ。クルマは性能じゃないんだって、よーくわかった」（イツキ）








NEXT EPISODE

予告編

「いま一番欲しいものですか？」「そう！」「んー拓海くんとふたりっきりでいる時間かな。もっともっとたくさんデートしてふたりっきりの思い出をいっぱいつくりたいの。でもせっかくの夏休みなのに、拓海くんてばバイトに忙しくて毎日会えないんだよねえ。それにデートしている最中に遠いところばっかり見てて、なつきがそばにいるのに……」「えと、長くなりそうなので……次回、『頭文字D』、FR殺しのデスマッチ！Don't miss it !!!」

BGM

音楽

NIGHT FEVER

DAVE RODGERS & MEGA NRG MAN

拓海の操るハチゴーが、2人組が乗るＳ15を追いかける。拓海は必殺の溝落としでＳ15を追い抜くと、もう１台までごぼう抜き。リズミカルな楽曲が、拓海のスーパーテクニックを鮮やかに彩る。

DANCING

VICKY VALE

デンジャラスな慎吾のテーマ。攻撃的なリズムとフレーズが、彼の過激な走りを表現している。コーナーを走る池谷のＳ13を後ろから小突く。オーバーラップする魔性の笑い声が、慎吾の恐ろしさを表す。

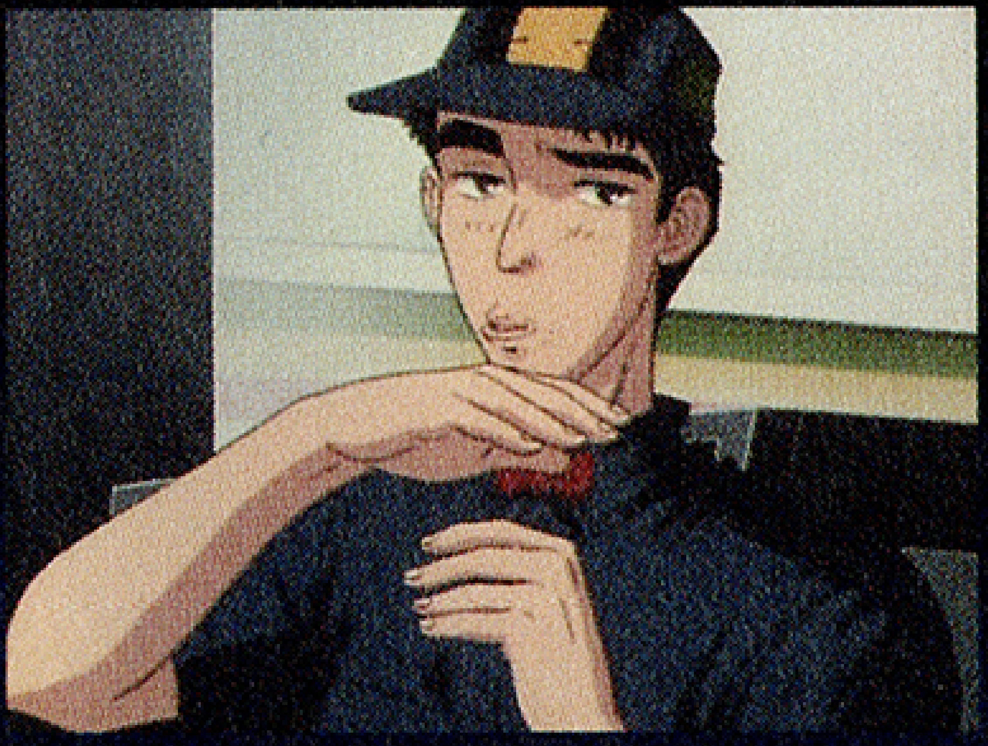
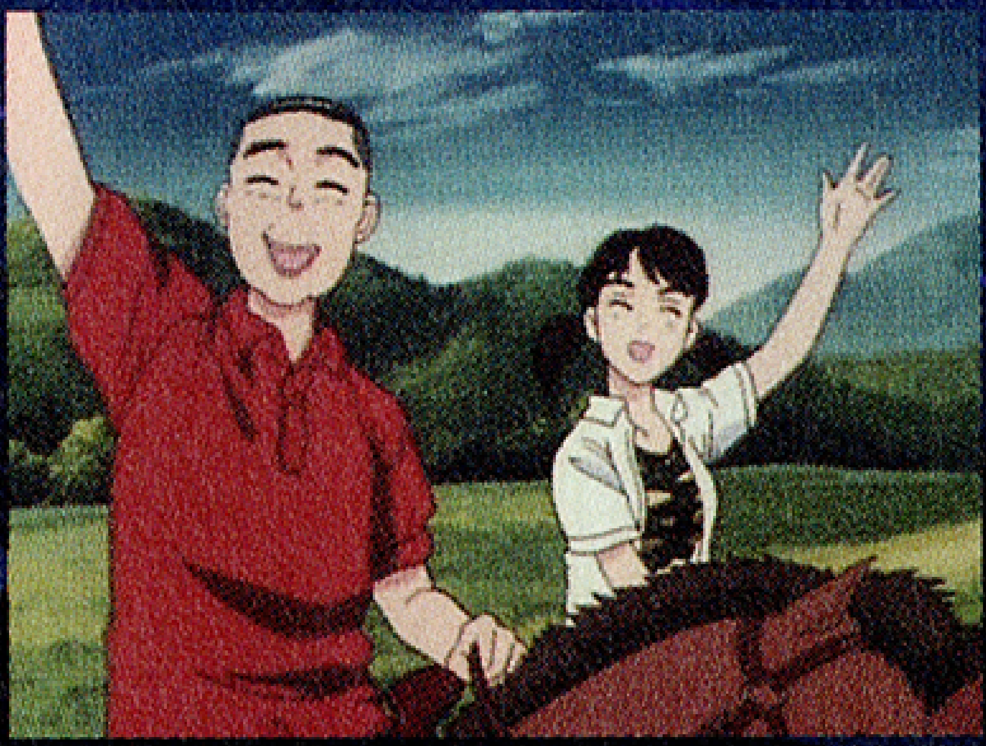
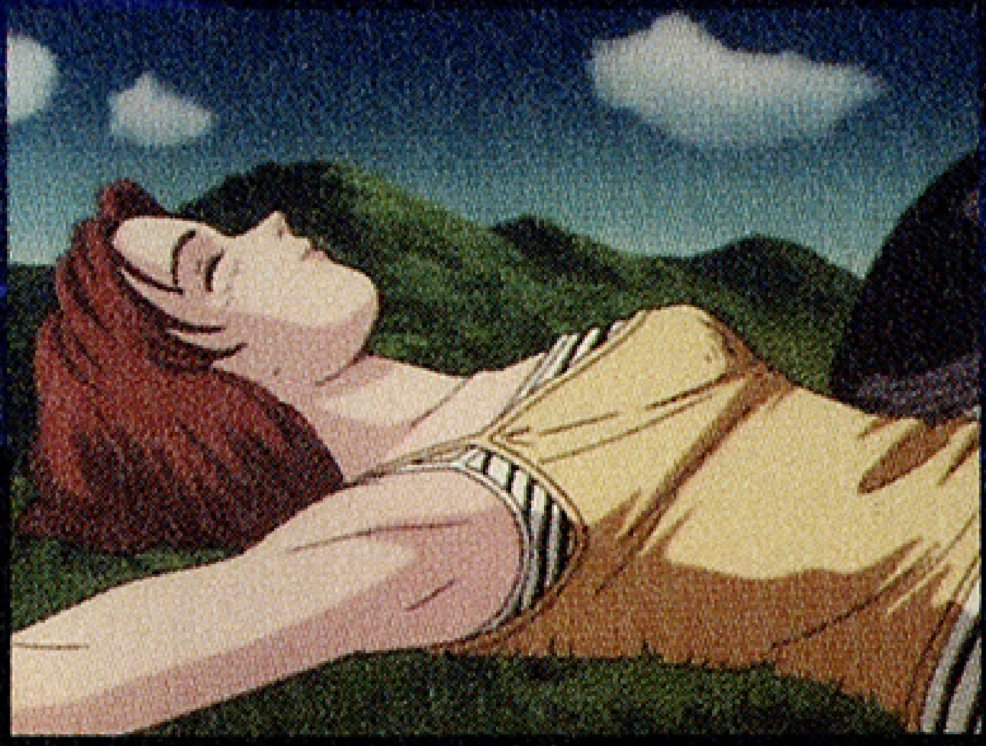
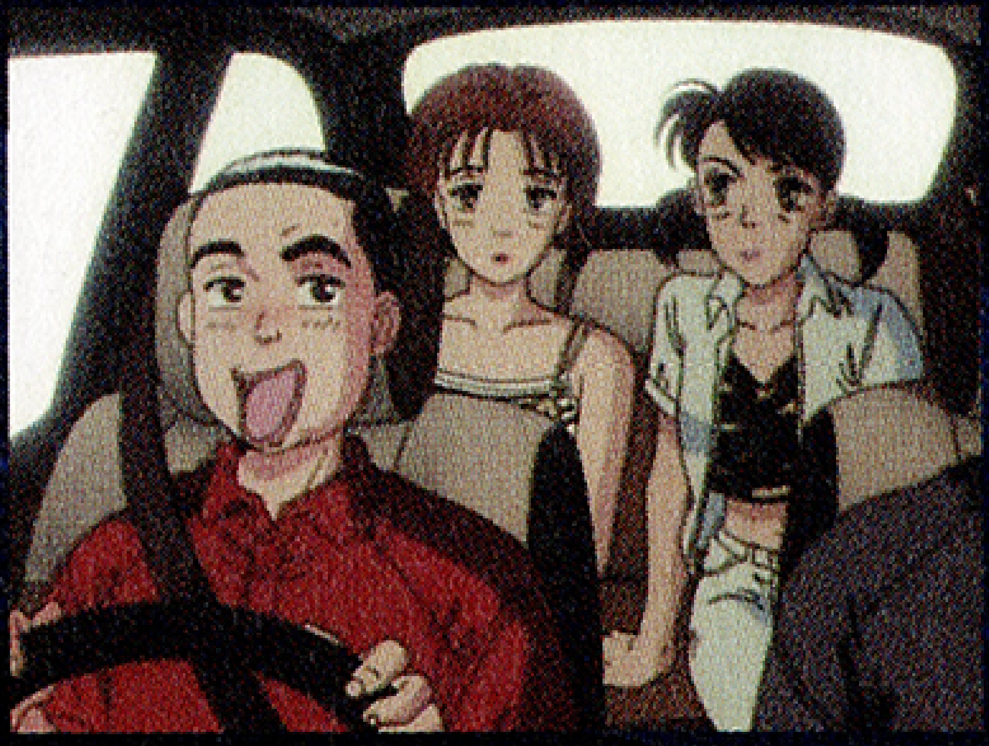
TITLE

ACT.12 FR殺しのデスマッチ!

Cast 拓 海 三木眞一郎／文 太 石塚運昇／イツキ 岩田光央／なつき 川澄綾子 祐 一 西村知道 池 谷 矢尾一樹
健 二 高木 渉 慎 吾 藤原啓治／沙 織 福島おりね 浩 二 天田真人

Staff 脚本 戸田博史／絵コンテ・演出 波多正美／音響制作 テクノサウンド／作画監督 石井邦幸／レイアウト監修 林 千博
色彩設計 安斎直美／色指定 藤田弘美 撮影監督 赤沢賢二 編集 岡安プロモーション
エンディングテーマ「Rage your dream」m.o.v.e(avex tune)



STORY

慎吾を追う池谷。しかし、慎吾のEG6は圧倒的な速度で去っていく。その高度なドライビングテクニックに池谷は脅威を感じる。茂木なつきは拓海との約束通り、中学時代の友人・沙織をイツキに紹介した。その夜、拓海は池谷のS13を運転することになる。そこに慎吾が登場。慎吾はハチロクのドライバーにガムテープデスマッチを申し込む。

CHECK POINT

沙織はアニメのオリジナルキャラクターだ。なつきの中学時代の友人で、秋名スピードスターズのナンバー4だと名乗るイツキに惹かれていく。拓海やイツキが毎夜、秋名峠で走っていることを、なつきや沙織は知らなかった。普段は退屈そうな高校生男子が、夜になると違う顔を持っている。男の二面性に女の子たちは驚く。

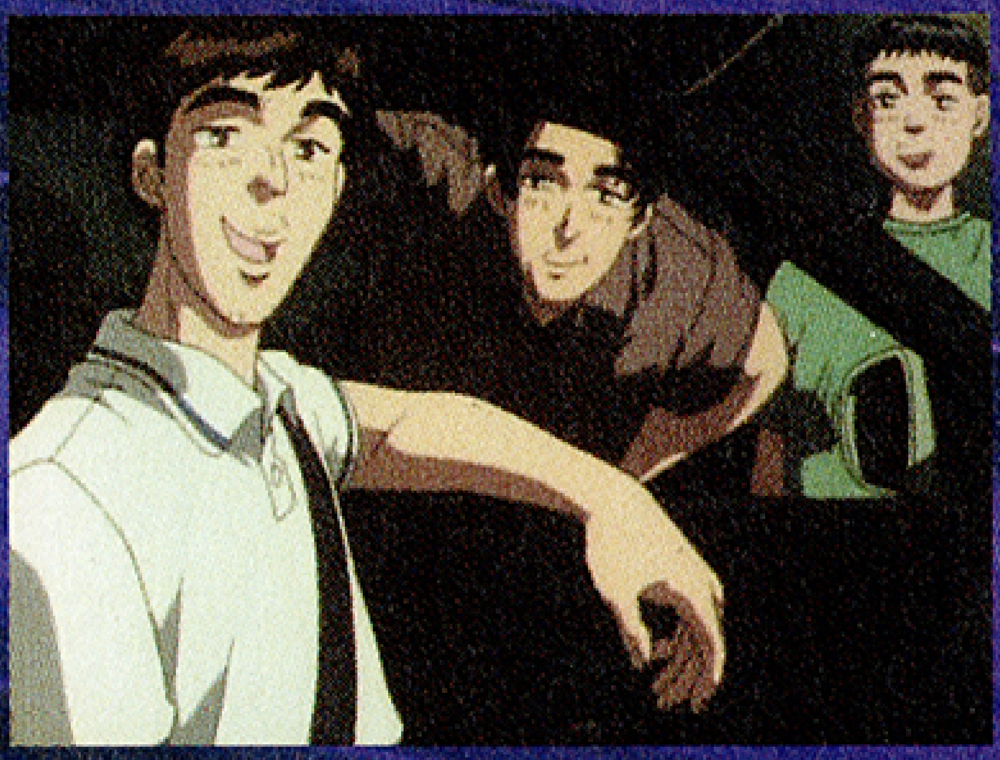
PUNCH LINE
名シーンピックアップ

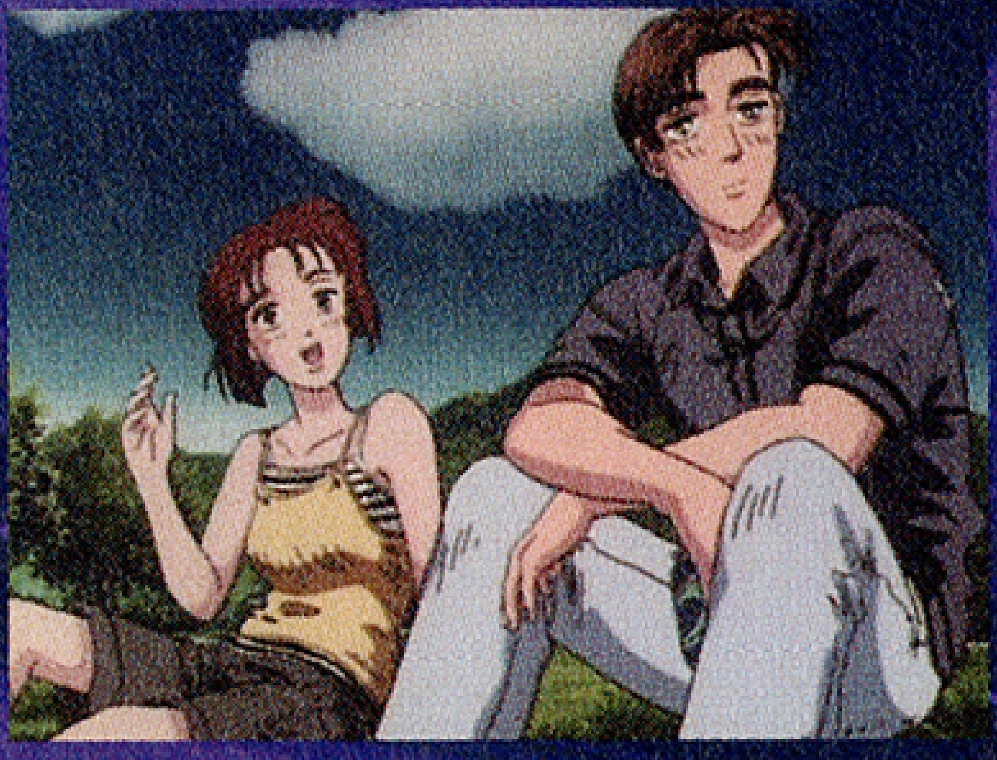
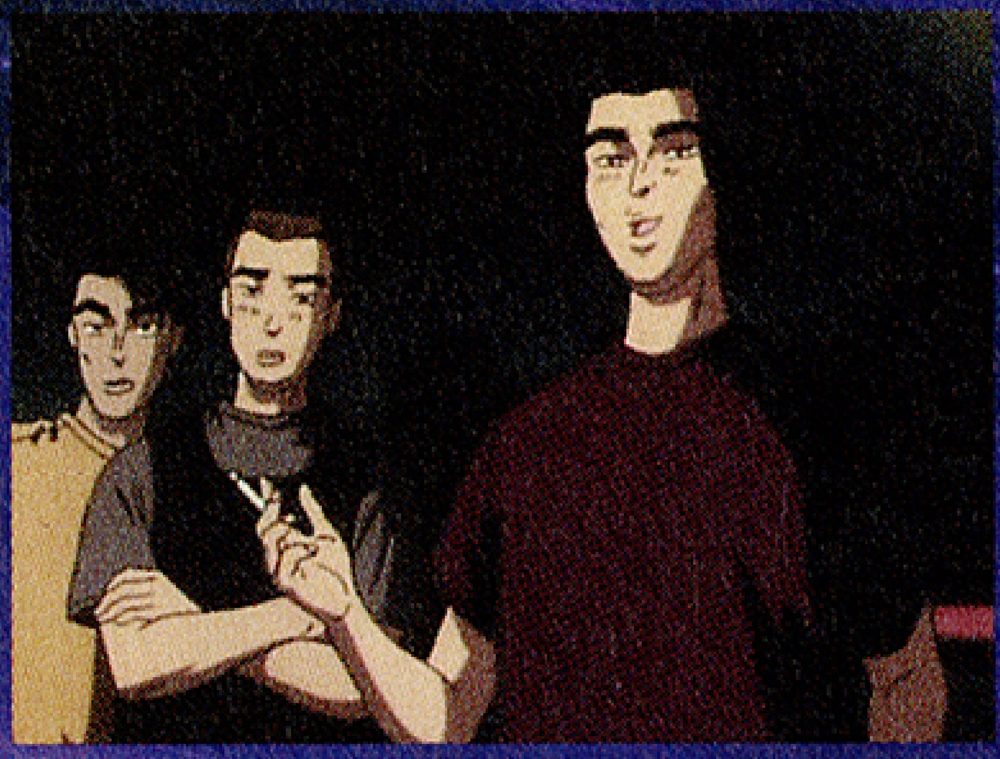
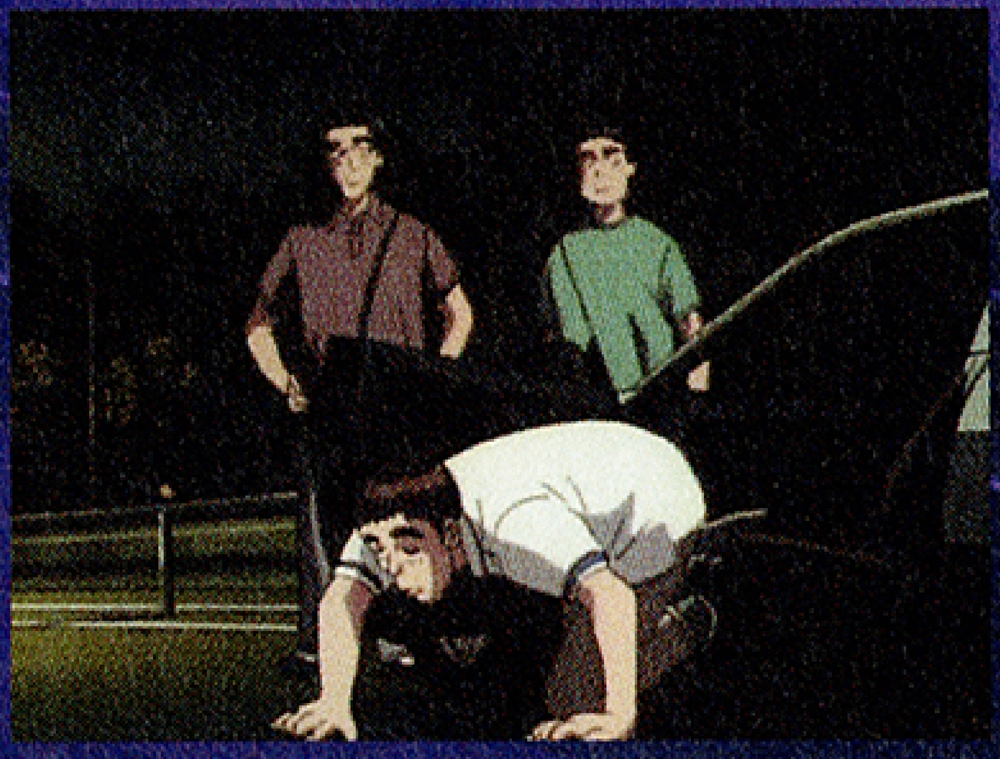
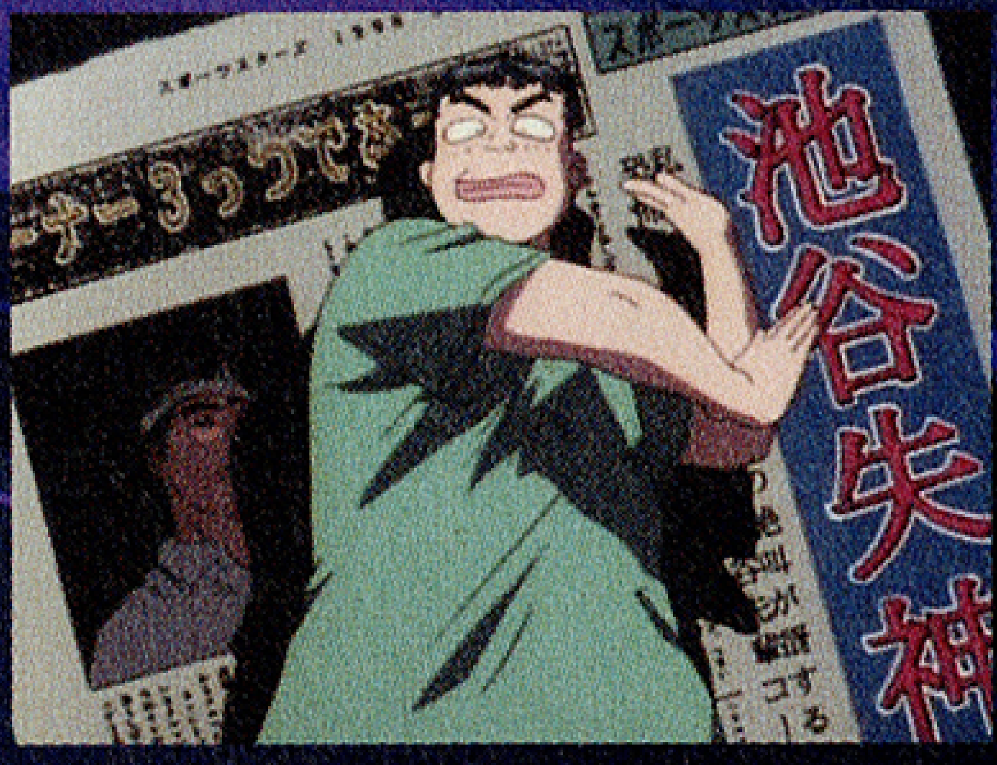


フロント駆動(FF)のEG6を運転する慎吾は、コーナリング時に右足でアクセルを踏んだまま、左足でブレーキを操作し、リア(車体後部)への荷重を制御する。これは高度かつ安全を優先するテクニック。旋回時にアクセルを抜くと、フロントへ荷重がかかりすぎ内側へ巻き込んでしまう。荷重コントロールの技術なのだ。

WORDS

「うちのクルマとはちょっと違うけど、だいたいわかりましたよ、このクルマの乗り方」(拓海)



NEXT EPISODE

予告編

「愛情運……来週ふたりの間は大いに進展のチャンスあり。くふふふふ！」「あれ、イツキくん。なんか良いことあった？」「はい。俺に彼女ができるんですよ！」「ホント？ Congratulations！で、相手はどこのだれ？」「このあいだWデートした！」「あ、沙織ちゃん？ 占いの続きだけど、深追いは禁物。トラブルに巻き込まれることがあるので要注意」「え？」「次回、『頭文字D』、イツキの初デート。Don't miss it !!!」

BGM

音楽

DANCING
VICKY VALE

「GO! GO! GO!」とテンションが高まる、慎吾のテーマ。池谷を追い越し、コーナリングで左足ブレーキを駆使しながら、一気に逃げ去ってしまう。

Rage your dream
m.o.v.e

エンディングでおなじみのm.o.v.eの曲がWデートの帰り道に流れる。はしゃぐイツキ。ハチゴーで蛇行運転をして、交差点でエンストしてしまう。あきれる拓海。

LOVE & MONEY
ZA-ZA

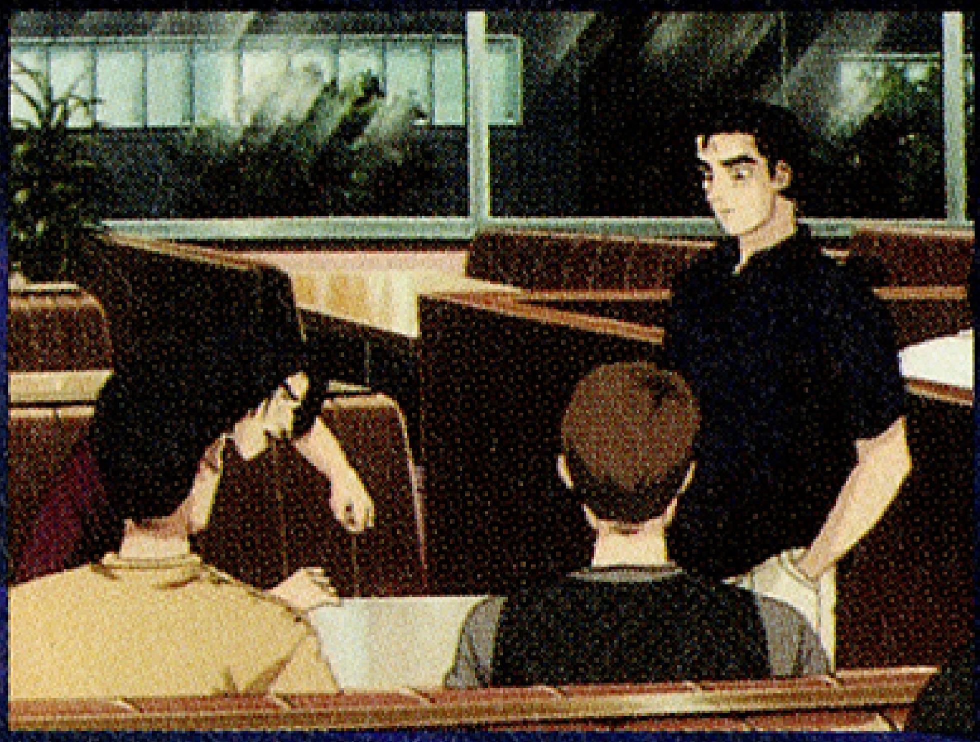
女性コーラスのフレーズからはじまる軽やかでスピード感あふれる曲。池谷を助手席に乗せて、拓海がS13でブレーキングドリフトに挑むときに使用される。

TITLE

ACT.13 イツキの初デート

Cast 拓海　三木眞一郎／文太　石塚運昇／イツキ　岩田光央／なつき　川澄綾子／祐一　西村知道／池谷　矢尾一樹／健二　高木 渉
中里　檜山修之／慎吾　藤原啓治／沙織　福島おりね／浩二　天田真人／真彦　鈴木 淳／吾郎　田中伸幸

Staff 脚本　戸田博史／絵コンテ　牧野行洋／演出　山口美浩／音響制作　テクノサウンド／作画監督　一川孝久、山崎 猛
レイアウト監修　林 千博／色彩設計・色指定　安斎直美／撮影監督　森下成一／編集　岡安プロモーション
エンディングテーマ「Rage your dream」m.o.v.e(avex tune)













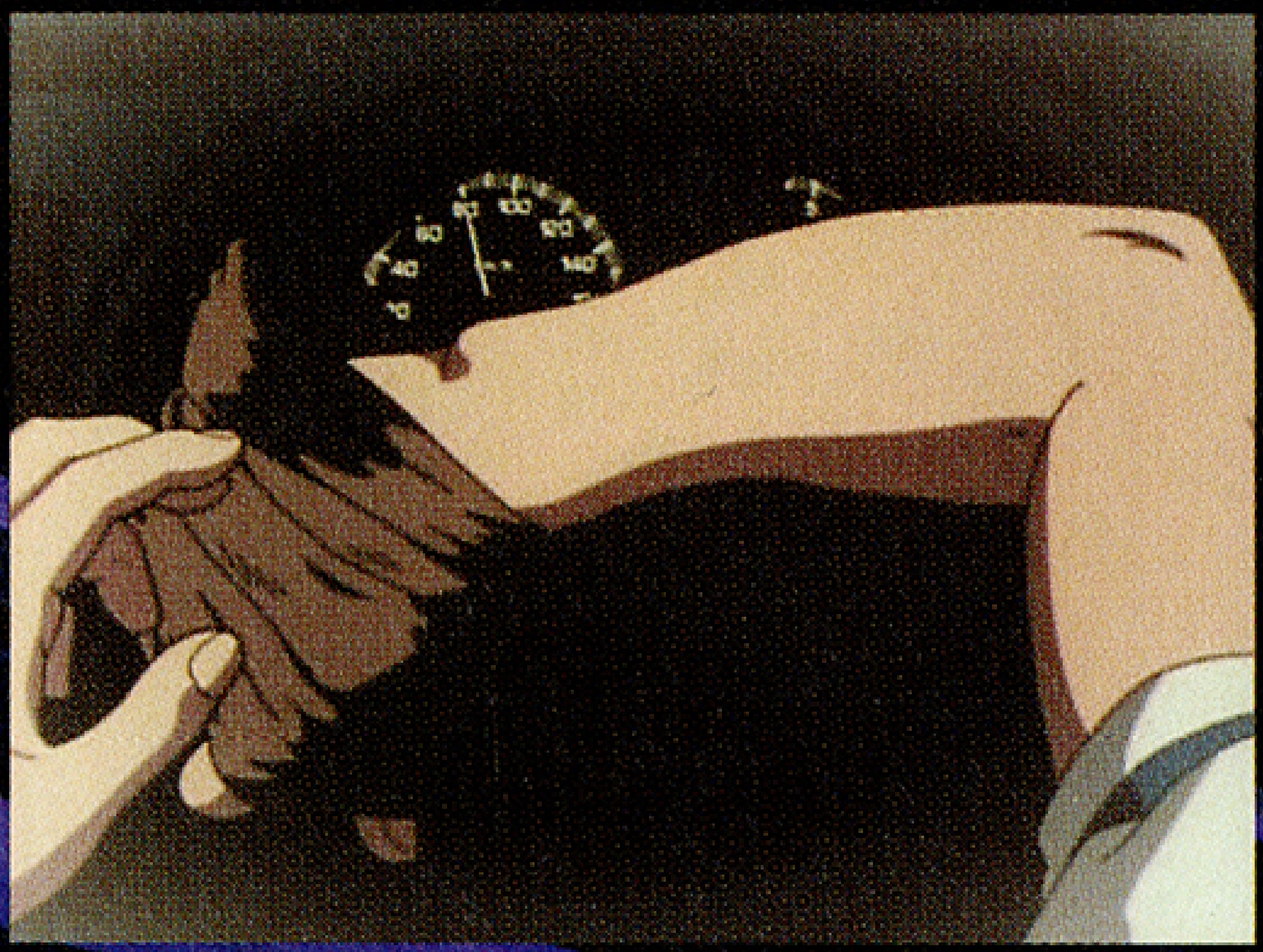
STORY

イツキは沙織と秋名湖へデートに出かける。その帰り道に慎吾が登場。イツキのハチゴーのバンパーを突き、壁に激突させる。イツキと沙織は救急車で運ばれた。その話を聞いた拓海は、慎吾とガムテープデスマッチで雌雄を決する覚悟を固める。中里に代わり、ナイトキッズのリーダーになろうと野心を燃やす慎吾とのバトルがはじまる。

CHECK POINT

イツキの初デートは秋名山めぐり。ロープウェイで秋名山の山頂に行き、風景を眺めたあとは、ふもとの湖でボートに乗る。ボートの上ではふたりっきり。イツキはキスを迫るが、うっかりボートから落ちてしまい、ずぶぬれに。気まずい空気のまま、デートは終わってしまう。せっかくデート攻略本を読んで研究したのに……。残念！

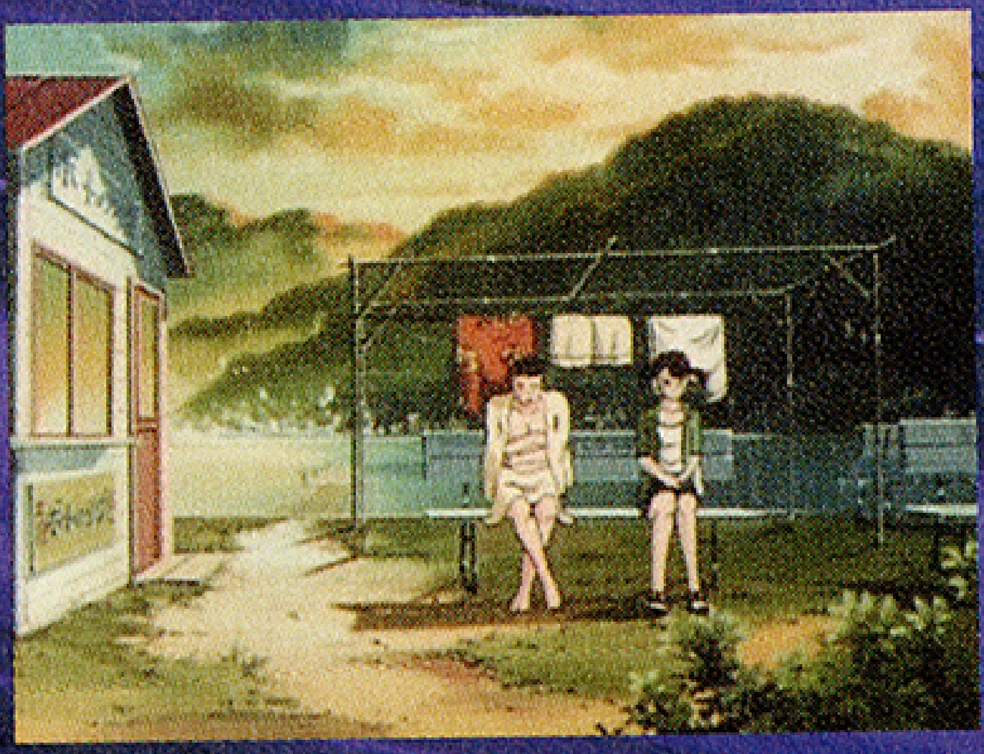
PUNCH LINE
名シーンピックアップ



慎吾のガムテープデスマッチは、ドライバーの右手をステアリングホイールにガムテープで固定した状態でバトルをすること。ハンドルを切れなくなるため、荷重移動やアクセルワークが求められる。後輪駆動車では不安定だが、前輪駆動（FF）だとサイドブレーキを駆使すると挙動のふらつきが抑えられるという。

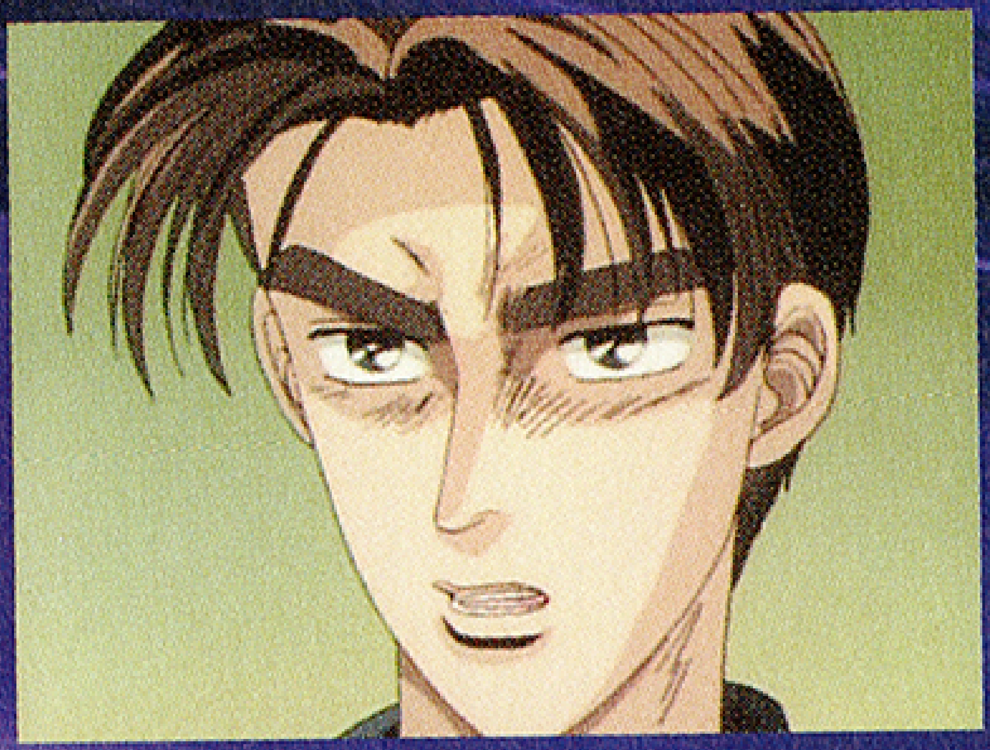
WORDS

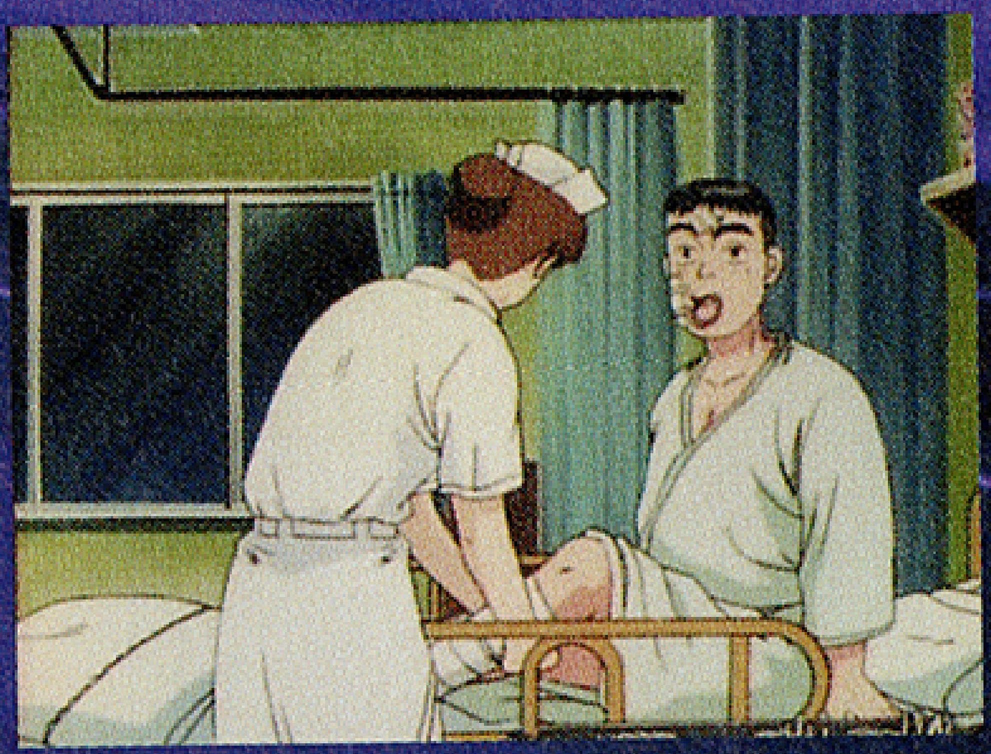
「走り屋の勝負なんだ……! やめられない!」(イツキ)

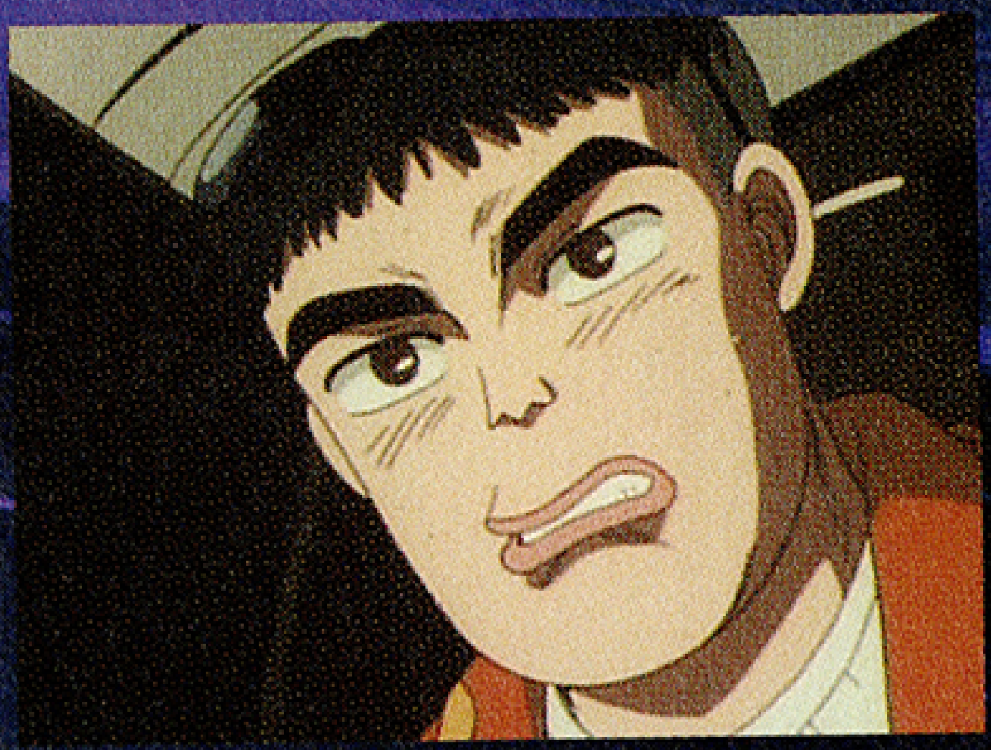












NEXT EPISODE

予告編

「イツキくんまで巻き込んでスピンさせるなんて、ちょっとやり方が汚すぎるんじゃないですか、慎吾さん」「いいんだよ。秋名のハチロクさえ出てくれば」「そんな!?」「ガムテープデスマッチのルールなら100%俺の勝ちだとわかりきっているからな。ただ勝つだけじゃおもしろくねえ。派手な余興も見せてやるぜ」「じ、次回、『頭文字D』、進化するドリフトの天才!」「ダウンヒルの本当の怖さ、たっぷり味わわせてやる」「Don't miss it !!!」

BGM

音楽

DANCING

VICKY VALE

悪魔のような笑い声からはじまる、慎吾のテーマ。慎吾が駆るEG6は、背後からイツキのハチゴーを追いかけ、ハチゴーのバンパーを小突く。ハチゴーはクラッシュしてしまう。

ROCK IT DOWN

m.o.v.e

「俺、負けませんよ。どんなことがあっても」拓海がガムテープデスマッチを引き受ける。そのときに流れる曲はm.o.v.eのデビューシングル。第13話ではイントロだけが流れる。

今だから話せる

バトルシーンになると流れはじめるユーロビート。速いリズムと泣けるメロディの組み合わせが、拓海たちドライバーの精神の昂ぶりを象徴している。庄司隆三さんはアニメ『頭文字D』をプロデュース面で15年にわたり支えてきた。数々の楽曲を手掛けるエイベックスグループが、初めてプロデュースしたアニメ作品『頭文字D』はどんな功績を果たしたのか。15年を振り返っていただいた。

『頭文字D』にユーロビートがハマった瞬間!!

企画プロデューサー ― 庄司隆三インタビュー

『頭文字D』にエイベックスとしてのすべてを投入する

― まずは庄司さんの、アニメ『頭文字D』との関わり方を教えてください。

企画です。『頭文字D First Stage』当時はエイベックスの映像企画や制作をする会社、プライム・ディレクション（★1）の取締役として、『頭文字D』のお話をいただきました。出資面を含めて立ち上げの制作全般を担当していました。現在はウェッジリンクの代表として、変わらずに『頭文字D Fifth Stage』に関わっています。

― エイベックスにとっては初のTVアニメーションになりますよね。

当時のエイベックスでは洋楽が主流です。マハラジャやジュリアナ東京（★2）、昔でいうディスコ、今でいうクラブにダンスミュージックを提供して、それをCD化する。ディスコで音楽を気に入ってくれた人にCDを買っていただく。そういうビジネスをしていたんです。「洋楽が動脈で、その洋楽をカバーする邦楽は静脈なんだ」とよく言っていました。「生命線としての洋楽」を大事に伸ばしていくという考えがありました。でも、それだけでなく、もっと広げていかないといけない。その模索をしている状況でした。

― つまり洋楽を広げていこうとしていた。

そうですね。その中のひとつとしてアニメがあった。映像の中で音楽が流れるとCDも話題になるし、キャラクターや、グッズなども幅広く展開できる。いわゆるバリューチェーンとしての展開です。『頭文字D』のアニメ化は、これにトライしてみようかと、勘というか、嗅覚みたいなものが働いたんですね。この作品にはエイベックスとしてのすべての要素を投入できるんじゃないか、と。そこで製作委員会形式でいろいろな会社に出資を求めるよりも、エイベックスの単独出資で幅広く展開する

庄司隆三
●しょうじりゅうぞう／企画プロデューサー。株式会社ウェッジリンク代表取締役。『頭文字D』シリーズをFirst Stageから現在のFifth Stageまで手掛ける。他にも『人間交差点―Human Scramble―』や『高橋留美子劇場』などのアニメ作品の企画を担当。

★1 **プライム・ディレクション**
雑誌出版、音楽著作権の出版管理、プロモーションビデオの制作、CM制作、ラジオ番組制作を手掛けるエイベックスの子会社。ディレクター、プロデュース集団として多彩な作品やアーティストを手掛ける。



『頭文字 D』のバトルシーンとユーロビートは切っても切り離せない関係だ！

ことにしました。それくらい作品の力を感じたんです。

――アニメ『頭文字D』というとバトルシーンにユーロビートが流れるところが特徴的でしたが、当時のユーロビートはどんな人気を得ていたのでしょうか？

現在も続いているユーロビートミュージックのコンピレーションアルバム『SUPER EUROBEAT』（★3）は当時81枚目か82枚目がリリースされていたんです。あの頃のユーロビートは日本のアーティストがよくカバーをしていました。エイベックスでいうとMAXや安室奈美恵さんがカバーをして『TORA TORA TORA』や『TRY ME ～私を信じて～』（★4）を歌っていたわけです。メロディラインがわかりやすくてJ－POPにぴったりなんですよね。そうやって邦楽でヒット曲を生んだあとに、洋楽のユーロビート自体に流れを戻していきたい。そこでその変形として、アニメの『頭文字D』があったわけです。

――『頭文字D』のバトルシーンにユーロビートを流すというマッチングはどんなところから発想したんですか？

やっぱり、それはイメージですよね。そのころコマーシャルの仕事でF3000（★5）とかそういうレースの現場に行くことがありました。そのときにユーロビートを聴くと、とても心地よかった。メロディラインがぴったりとハマるんです。カースポーツでユーロビートをかけることで1＋1が3にも4にもなるようなネタがないだろうかと思っているところに『頭文字D』の話があったんです。それでバトルシーンはユーロビートでいこう、と。企画がスポンとハマった瞬間です。

――実際の作業としてはどのように進めていったんですか？

ドンッとユーロビートのCDをスタッフにたくさんお渡ししました。それを音響監督さんに好きに使ってほしいとお願いしました。当然、こちらとしてはクオリティの高い音楽をチョイ

★2
マハラジャやジュリアナ東京
マハラジャは1982年に大阪で展開をはじめたディスコチェーン。お立ち台やドレスコードを導入し、話題となった。ジュリアナ東京は1991年に東京芝浦にオープンした巨大ディスコ。

★3
SUPER EUROBEAT
イタリアで制作されたユーロビートを収録したコンピレーション・アルバムシリーズ。1990年にプライム・ディレクションの前身ビートフリークから発売された。VOL.9よりエイベックスで発売される。

スした上でアルバムを制作していますから、その中からならどんな曲を使っていただいても構わないという気持ちでした。今までのアニメのバトルシーンのように毎回同じ音楽が流れるのではなく、バトルシーンごとに違う音楽が流れるようになり際立ったような気がします。洋楽の担当者が映像で楽曲を使うというのですごく喜んでいて「第1話を観て鳥肌が立つような思いだった」と言っていましたね。

―― TVシリーズですから、視聴率やCDなど反応がすぐに見える部分もあったと思います。そのあたりはいかがでしたか？

アニメ『頭文字D』はオンエアが深夜でしたし、『F1』の中継があると深夜4時くらいになるわけで。これは大丈夫かな、と僕らも思ったんです。そうしたら、すぐに反応がありました。「SUPER EUROBEAT」がハネましたから。それまで1万枚ぐらいのセールスだったアルバムが、いきなり2万、3万になりましたからね。当時、『頭文字D』を観ている主婦の方からエイベックスにファンレターをいただきまして「すごくすっきりしました」と書いてあって、すごくうれしかったですね。何が苦しくて深夜にTVを観ていたのかな？　と気になりましたけど（笑）。素材の良さが1＋1＝3にすごく広がっているなって感じました。そのあとに『SUPER EUROBEAT presents Initial D Selection』というアルバムシリーズを出させていただいて、これも15万～20万枚のセールスになったんです。そのあと『SUPER EUROBEAT』が100枚目（★6）になったときは100万枚まで達成できました。広く新しいファンを獲得しつつ、昔からのファンにも受け入れられるという大成功になったかな、と思いました。今回のFifth Stageで『SUPER EUROBEAT Vol.221』になります。

―― 主題歌を担当していたm.o.v.eさんもブレイクしましたね。

あのころは主題歌の選曲も担当していましたから、うれしかったですね。m.o.v.eの楽曲は、圧がすごくかかっているようなイメージがあって、それがドリフトの接地感に近い印象があったんです。実は、音響収録のときに土屋圭市さん（★7）が運転するクルマでドリフトをしてもらったことがありまして。僕自身も乗せてもらってドリフトをしてもらったんですけど、あれは我々の感覚だと事故寸前なんです（笑）。カーブが目の前にあるのにクルマが横を向いているわけですからね。あのときの地面をがりがりと削りながら走る感覚と、あと運転中の土屋さんの背中の筋肉ね、あれがすごいんですよ。すごい圧がかかっているんだなあと思って、カッコいいなと素直に感じた。あの感覚をm.o.v.eの楽曲に重ねることができたんです。

―― motsuさんのラップとyuriさんのメロディの前のめりな感じは、たしかにそんな印象がします。

接地感あふれるm.o.v.eのオープニング曲、エンディング曲と流れるように疾走感のあるユーロビートをバトルシーンに入れることで、うまく音楽が構成できたんじゃないかと思います。m.o.v.eは『頭文字D』に楽曲を提供したことがきっかけで20万～30万枚のアーティストになりましたしね。

―― いまでは「D1グランプリ」などのドリフト大会では、ユーロビートやm.o.v.eさんの楽曲が使われるようになって、ドリフト＝ユーロビートとm.o.v.eというイメージができあがりましたね。話は戻りますが、土屋さんが運転するクルマにお乗りになったんですね。

効果音などはすべて実車を使ってサーキットで収録したんです。土屋さんのクルマに乗せていただいたのは、そのときです。『頭文字D』の効果音はひとつもウソがないんですよ。クルマが

★4
『TORA TORA TORA』や『TRY ME ～私を信じて～』
『TORA TORA TORA』はガールズグループMAXの1996年発売の3枚目のシングル。ユーロビートで人気のアーティストDomino作曲のカバー曲。『TRY ME ～私を信じて～』は安室奈美恵 WITH スーパーモンキーズの1995年発売の5枚目のシングル。LOLITAの同名曲のカバー。ユーロビートアーティストのディヴ・ロジャースがプロデュースを担当した。

★5
F3000
国際自動車連盟（FIA）が定義するフォーミュラカーのレースカテゴリー。F1へのステップアップカテゴリーだったが、2005年から「GP2」カテゴリーに移行。

ドリフトするときの音は、土屋さんがドリフトするときの音を録っています。ドアの開閉音やギアをチェンジする音、ウィンカーの音やスピードメーターの警告音、ボンネットを開ける音やウインドウを開ける音まで全部本物の音を使っているんです。やっぱり、ドライバーの方は、音を聞くだけですぐに本物か偽物かわかっちゃいますからね。シリーズを重ねるごとに、土屋さんに必ず来ていただいて、音響面を含めたサポートをお願いしています。

――『頭文字D First Stage』の放送後に、エイベックスさんの社内の反響はいかがでしたか？

すごく大きかったですよ。やっぱり、映像も音楽もすべてが成功しましたから。シリーズ化をするにあたり、大事にしないといけない部分と進化していかなきゃいけない部分があるわけです。シリーズを通じて大事にする部分は、声優さんも含めほとんどスタッフ・キャストが変わっていないことです。

進化していく部分はクルマの3DCGですね。3DCGはシリーズを続けていくうちにどんどん進化していきましたから。エイベックスとしてはアニメコンテンツに初めてのトライでした。すごく良いかたちで実績を残すことができましたね。その後、『頭文字D』に続いて、いろいろなアニメーションを制作することにつながりました。ビジネスとしても、とても大切な作品です。

――ところで、庄司さんはどんなクルマにお乗りになっているんですか？

新型のハチロク（★8）を購入しましたよ（笑）。アニメ『頭文字D』のおかげでハチロクに注目が集まりましたね。新型が出るのはうれしいですね。

――『頭文字D』の魅力はどういったところだと思われますか？

クルマを使ってバトルをするわけですが、そのバトルは生々しく傷つけあうようなバトルではないんですよ。『頭文字D』のバトルは青春なんです。バトルが終わると、お互いが親友になっていく。暴力もほとんどない。青春ストーリーなんです。

――庄司さんは15年にわたり『頭文字D』に関わっていらっしゃいます。最後に、庄司さんにとって『頭文字D』はどんな作品かを教えてください。

ライフワークです。原作のクライマックスがどのようになるのか、今から、楽しみにしています。

カースポーツにユーロビートをかけることで1＋1が3にも4にもなったのが、『頭文字D』でした。

（庄司隆三）

★6
『SUPER EUROBEAT』が100枚目
1999年にコンピレーションアルバムシリーズ「SUPER EUROBEAT」が100作目を数えた。200作目は2010年に達成。

★7
土屋圭市
レーシングドライバー。卓越したドライビングテクニックでドリフトを披露することから、「ドリキン（ドリフトキング）」と呼ばれる。アニメ『頭文字D』には監修、声優としても参加している。

★8
新型のハチロク
トヨタが2012年にリリースしたコンパクトスポーツカー。2＋2シーター。86（ハチロク）という名称で呼ばれている。水平対向4気筒エンジンを車体フロントに低く後ろ寄りに搭載し、後輪を駆動する。

のバトルがはじまる!!

毎月第2週金曜日に更新予定！　7・8話は2月8日放送！

武内 樹：岩田光央　健二：高木 渉　池田竜次：中井和哉　奥山広也：阪口周平　藤原文太：石塚運昇
キャラクターデザイン：佐藤正樹　総作画監督：小丸敏之　メカデザイン・メカ作監：横井秀章
監督：橋本みつお　製作：ウェッジリンク



全力バトルのはじまりだ!!

神奈川第三防衛ラインは池田竜次が率いるチーム・スパイラルだ！池田が唱えるゼロ理論とは何か？池田は言う。

「俺はただクルマが持っている最高の状態を引き出すだけだ…。それができたとき結果は後でついてくる。必要なのはゼロの心だ…！」

いったいゼロ理論とはいかなるものか。高橋涼介は弟・啓介がゼロ理論にぶつかったとき、苦戦すると断言する。そして、その理論に勝つ計算をするのが自分の仕事だ、と涼介は語る。ヒルクライムは高橋啓介VS池田竜次！

特報
第4弾

啓介の闘争心が炸裂する!!
プロジェクトD VS ゼロ理論

頭文字D　Fifth Stage　アニマックスpresents PPVにて放送

Cast　藤原拓海:三木眞一郎　高橋涼介:子安武人　高橋啓介:関　智一　史浩:細井　治　池谷浩一郎:矢尾一樹

Staff　原作:しげの秀一（講談社「週刊ヤングマガジン」連載）　企画:庄司隆三　脚本:岸間信明　CG監督:安田兼盛 監修:土屋圭市　アニメーション制作:Synergy SP　プロデューサー:福田佳与



ダウンヒル
downhill

ダウンヒルは藤原拓海 VS 奥山広也！

そのふたつのバトルの裏では、高橋涼介のプロジェクトD VS 池田竜次のゼロ理論という頭脳のぶつかり合いが行われているのだ。

ドライビングテクニック、クルマのチューンナップ、高度な戦略、そして闘争心！　互いのすべてをぶつけ合うバトルは、どちらが勝ってもおかしくないほど高度な領域へと踏み込んでいる。

だからこそギャラリーの動きも活性化し始めた。神奈川エリアのバトルを見守り続けている北条 豪と久保英次に加え、母とともにバトルを眺める乾 信司、そして、死神と呼ばれる男の姿も不気味に見え隠れする。

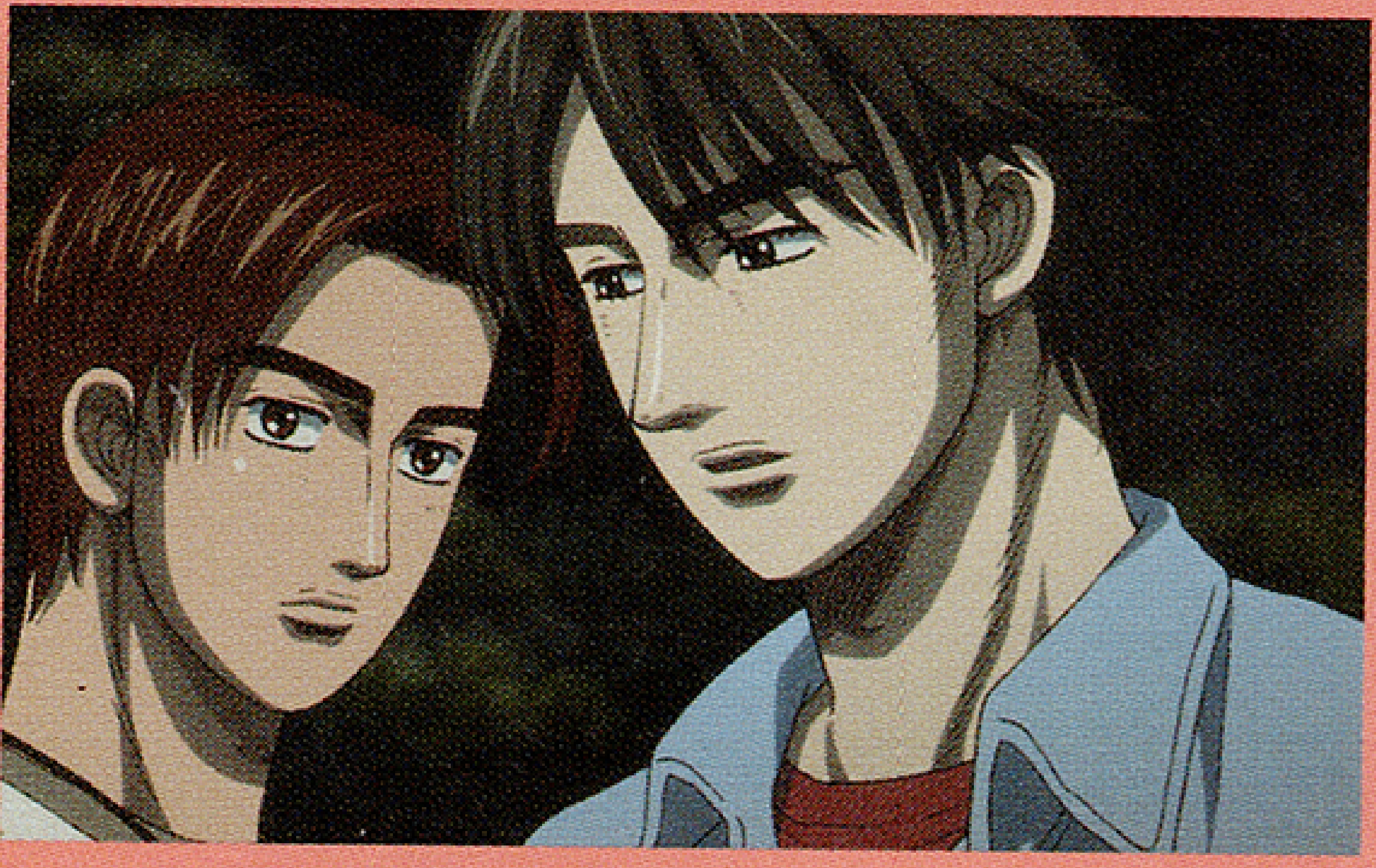
拓海たちプロジェクトDは、数多くのライバルとバトルし、さらなる高みへと突き進む。その先に待つ未来は!?　Don't Miss It!!　拓海と啓介の真価が問われている!!

第7話『無の心』

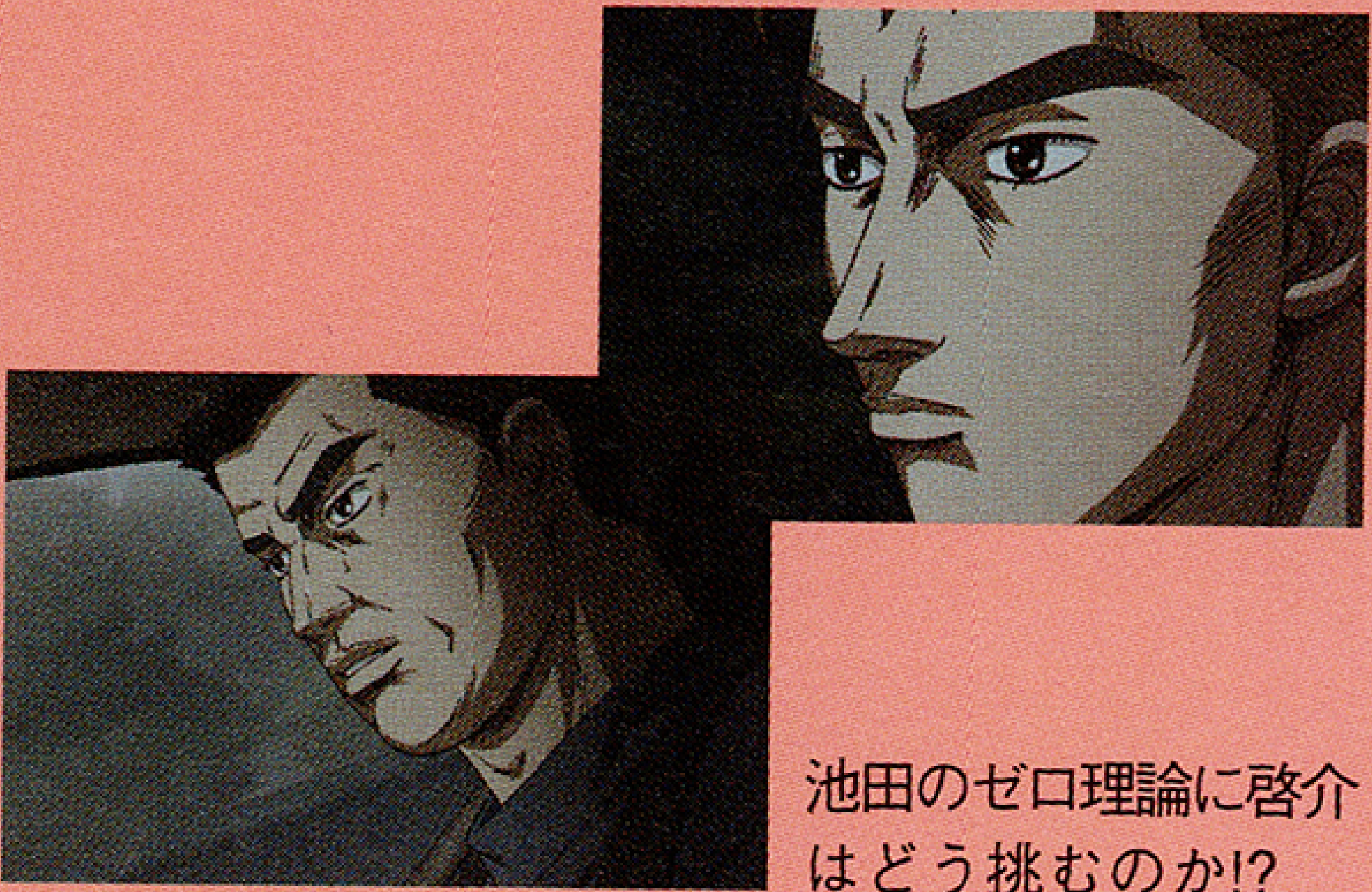
最新話紹介



第8話『白い悪魔』



涼介は拓海に作戦を伝える。それは……!?



池田のゼロ理論に啓介はどう挑むのか!?

クルマの意志とドライバーの意識

池田の唱えるゼロ理論とは、クルマとドライバーがひとつになる人馬一体の理論である。クルマに意志があると考え、寄り添うようにドライバーは自分の意識を消していく。サスペンションの沈み、タイヤのたわみ、トルクカーブの頭打ち……そうしたクルマが囁くサインを見逃さなければ、もっとも理想の走りができるというものだ。

池田は断言する。「必要なのはゼロの心だ……!」

そして、涼介は池田のゼロ理論を認めつつも、否定する。ドライバーが速くなるためには理論の構築、テクニックは必須としつつも、さらに絶対に必要なものがあるという。

それは、闘争心だ!

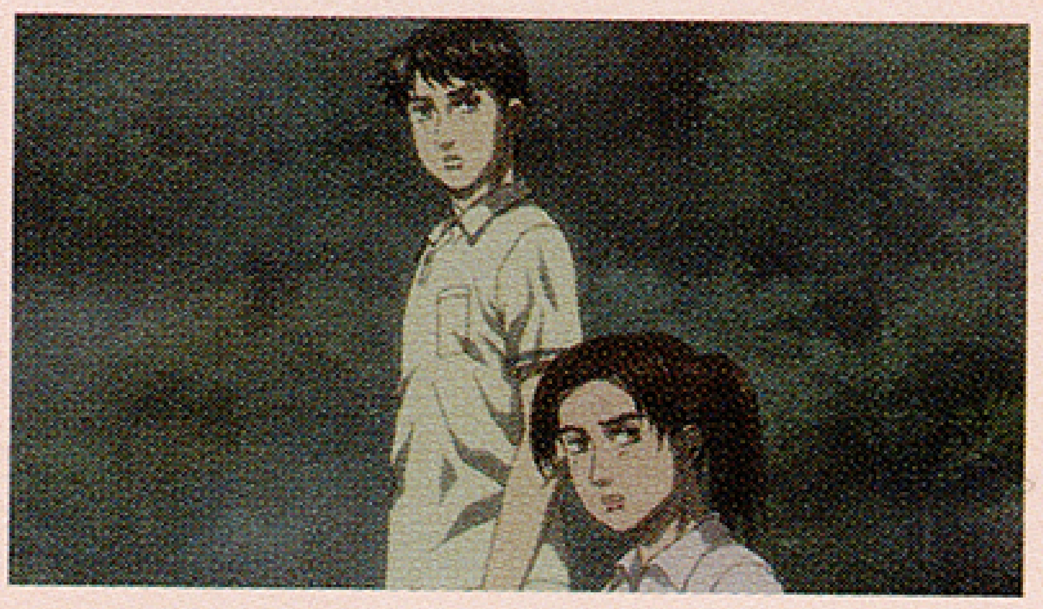
啓介の闘争心は池田のゼロ理論をぶち破るか!?

それとも、無(ゼロ)の心の前に敗れるのか!!

そして、七曲りを走るふたりのドライバーの前に、箱根名物、白い悪魔が押し寄せていた!

CHECK

激しいバトルに不穏な影!



夜の峠に似つかわしくない親子の姿…。



死神と呼ばれる不気味な男…。

講談社キャラクターズA

メモリアルDVD(ディーブイディー)マガジン 頭文字D(イニシャルディ) First Stage(ファーストステージ) Dash編(ダッシュへん) VOL.4

2013年2月1日　第1刷発行

講談社編

発行者：清水保雅
発行所：株式会社　講談社
〒112-8001　東京都文京区音羽2-12-21
［電話］編集部：03-5395-3570
販売部：03-5395-3608
業務部：03-5395-3603
印刷所：大日本印刷株式会社
製本所：大日本印刷株式会社

N.D.C.726　36p　19cm　Printed in Japan　ISBN 978-4-06-358430-1

MAGAZINE STAFF

編集　西　保雄（講談社）
柿崎俊道
執筆　志田英邦
野口智弘
柿崎俊道
デザイン　大森寛士（masterpiece inc.）
写真　花房徹治（講談社）
取材協力　福田佳与

DVD STAFF

ディレクション　似鳥将俊（Video-Tech）／渡辺有希（Video-Tech）
柿崎俊道
コーディネート　似鳥将俊（Video-Tech）／渡辺有希（Video-Tech）
エンコード　林　慎一（Video-Tech）
オーサリング　堀岡祐子（Video-Tech）
編集　尾形茂信（Video-Tech）／渡邉吉郎（Video-Tech）
メニューデザイン　渡邉吉郎（Video-Tech）／大森寛士（masterpiece inc.）
MA　高木公平
撮影　梶田　悟
VE・音声　星　照光（REC）
取材協力　福田佳与

CONTENTS

